



獨逸國普通商法
一



獨逸國普通商法

一



114
A2783
1





獨逸國普通高法

大正十一年四月

翻譯

第一條

渾テ商賣ノ事務ニ就テ此法律各中於テ成規ハテサ
ル以内ハ高賣習慣法ヲ準用レ而シテ該法中ニモ亦定例
如スルハ合於テハ一般ノ民法ヲ準用スルモ可ナリ

第二條

獨逸國為換方派ノ成規ハ一條タリ此法律ノ為メ
打捨スルヲ無シ

第三條

何條ヲ問ハス此法律書中ニ掲載シタル事
之ヲ以テ地方ニ於テハ通常ノ裁判所ニ充ツル

第一編

商人ノ種類

第一

商

第四条

此法律中ノ皆趣ニ於テハ凡ソ何レノ常職トシテ商業ニ就スルモノハ商人トシテ看ス

第五条

商人ノ為メニ設ケレ成規タリ氏商社株券發行會社及株券會社ノ為メニモ亦令様ニ準用スルコトヲ得

又通常ノ銀行ノ為メニモ其商業ニ關係スル區域ヲ準用スルコトヲ得可シ但シ之カ為メニ銀行成規ヲ扞指スルコト無カル可シ

第六条

通常ニシテ商業ヲ営ムル婦女ハ商婦トシテ看ス

又其經紀スルモノニ就テハ渾テ商人ノ權理及シ義務ヲ有ス

商婦ハ婦女ノ為メニ設ケタル各州ノ潤典ニ從ルコトヲ得

右ハ独立ニテ學業スルモノハ他人ト共全シテ

ハ自身ニテ或ハ總任主官ニ委託シテ營業スルモノハ別ナル

ト無

第七条 家婦ハ其夫ノ承諾ヲ得テハ商婦ト成ルコトヲ得

若シ其夫ト協心シ又ハ其抗拒ヲ受ケズレテ商業ヲ經紀シテ

アル時之ヲ其夫ノ承諾トシテ看做ス

但シ商人ノ家婦ニシテ唯其夫ノ商業ヲ補助スルモノハ商婦ト

ト為スヲ得ス

第八条 家婦ニシテ商婦タルモノハ商業事務ニ就テハ其夫

ノ承諾ヲ要セス自ラ義務ヲ負荷スルコトヲ當然トシ

商業上ノ負債ニ對シテ該婦ハ自己ノ財産ニ付テ其夫ノ之ヲ

支配シ及シ使用スル權理又ハ此ハ自己ノ財産ニ付テ其夫ノ之ヲ

約上ヨリ生シノモノ其夫ノ權理ニ關係スルモノハ其夫ノ之ヲ

以テ保任スルコトヲ得

○商婦其夫ト共通シタル財産ヲ以テ保任スルコトヲ得

○商婦其夫ト共通シタル財産ヲ以テ保任スルコトヲ得

○商婦其夫ト共通シタル財産ヲ以テ保任スルコトヲ得

之ヲ以テ保シス可シ但シ夫タレモノ其財産ヲ以テ其婦ト連
帶シテ保証ス可キコト否ハ各列ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム可シ
第九條 高婦ハ高賣ノ事件ニ付テ其婦購セシモノト否ト
ニ區別ナク独自法庭ニ出ワレテ得ヘシ
第十條 此法律各中商標及易帳簿及之總任主管ニ付テ成規
ハ賣賣人骨董店賣取人古類似ノ微少ナル職業上ノ人
微少ナル運搬夫及之船主并ニ其他ノ職工ノ範圍ヲ脱セサル
營業人ノ為メニ通用ユルヲ得ヘカラス但シ場合ニ因
リテ種類ノ區別ヲ精密ニ規定スルニ付テハ之ヲ各
列ノ法律ニ讓ルモノナリ
前掲成規ノ管涉ニサレ商業ヲ數人共同ニ經營スルトハ
トシテ之ヲ做サス
又前掲ノ成規ニ各列其官商ノ商人中ニ就テ前掲ノ成規
ニ依リテ之ヲ定ム可シ

ル他ノ種類ニ通用トナシ或ハ前項ニ開列ナシタル
テ其ノ種類ニ通用ユルニ或ハ各列其管内ノ商人タル
ニハ總テ通用ナルニ準テ各列ノ法律ニ依リテ之ヲ定
第十條 職業警保上及之職業稅上ニ必要ナル為メ商人ノ性
質及之區別ノ種類ヲ規定シタル各列ノ法律ヲ為メ此法律各
中ノ成規ヲ施行スルニ際シ絶ヘテ扞格セサルヘシ並ニ
法律各ノ為メ前掲各列ノ法律ニ亦扞格セサル可シ
第二章

商業簡明簿 事

第十二條 渾テ各商法裁判所ニ於テハ商業簡明簿ヲ設ク置キ
此ノ法律各ニ於テ記載ス可ク制定レタル事項ヲ登錄ス
可シ
商業簡明簿 何人ナリ之ヲ總覽スルヲ許ス但シ此ノ總覽

時間ハ裁判所ニ於テ日常事務ヲ取扱ハ間タニ限ル又手数料
ヲ差出シ右登録中事項ノ爲是ヲ以テ詞訟ニ信託ニ供スルモ
ノヲ請フヲ得可シ

第十三条 此ノ法律各箇ノ場合ニ於テ別段ノ成規ニサ
ル以テハ商法裁判所ヨ 此簿中ニ登録シタル全文一回或
ハ數回ニ分割シテ速ニ新聞紙ニ付シテ廣告ス可シ

第十四條 各商法裁判所ヨリ毎歲十二月ニ於テ其管轄地方ニ
就テ第十三條ニ掲ケル廣告ヲ翌年中ニ刷行セシム可キ新
聞紙ヲ定ム可シ○此決議ヲ一新聞紙或ハ數新聞紙ニ於テ廣
告ス可シ

若シ右議定シタル新聞紙ノ中其年内ニ於テ廣告ヲ廢絶スル
時ハ裁判所ヨリ其代リニ他ノ新聞紙ヲ更ニ撰定シテ之ヲ廣
告スベシ

裁判所ニ於テ前事項ヲ撰定スルノ上ハ官
可キ歎否ハ各州ノ法律ニ準テ決ス可シ

第三章

商標ノ事

第十五條 凡ソ商人タルモノ高賣中一ノ名ヲ設ケ之ヲ以テ
業ヲ営ミ文唇ニ署スルモノハ商標トス

第十六條 結社セス一人ニテ或ハ暗社負ト業ヲ営ム商人ハ唯
其社ニ名ヲ加エ或ハ姓ノミヲ以テ商標トシテ用ユ

商標ハ会社ニ紛ニハレシニ意義ヲ含ミタル附号ヲ加ヘルヲ得
ス但シ人或ハ事業ヲ精シク表章スル為ノ用ユレ所ノ附号ヲ
加ヘルハ此ノ限リニアラス

第十七條 共同高社ノ商標若シ總社負ノ名ヲ列レ總社時ハナ
クモ一社負ノ名ト高社ノ現成ヲ表シタル附号トヲ存セ

レヘカラス

委任会社ノ商標ハ市ナリ氏親自ラ保証スレ社中ノ一員ノ名
ト会社ノ現成ヲ表シタル附号ト存セサル可ラス
自ラ保証スル社員ノ姓名ノ名ヲ商社ノ商標中ニ加フル
ヲ許サス又共同商社及委任商社ハ總令暗社員ノ共銀株券
ト交換シテ有ル氏株券会社ニ等シキ商標ヲ附スル

第六十八條
参考スヘシ

第十八條 株券会社ノ商標ハ通常事業ノ記柄ヲ表章セザル可

カラス
付トシテ之ニ備ハ
レモ妨ケ無シ

社人及シ他人ノ名ヲ商標ノ中ヘ加フルヲ得可ラス

第十九條 凡テ商人ハ其店舗所在ノ地方商法裁判所ヘ商業簡
明簿及登錄ノ為メ商標ヨシ稟シ而シテ之ト共ニ自己ノ姓名
ヲ手署シ或ハ公正ノ証人ヨシテ之ヲ證スヘシ

第二十條 新メニ命スル商標ハ全地方或ハ全區ニ於テ既ニ存
在スル商標ニシテ且ツ商業簡明簿ニ登錄タル商標ト判然
ニ別セザル可カラス

既ニ商業簡明簿ニ商標ヲ登録シタル商人ト全シ姓名ナル商
人カ其姓名ノ商標トシテ用ント欲セハ既ニ商業簡明簿ニ登
録シタル商標ト判然異ナル附号ヲ加ヘサル可カラス

第二十一條 他ノ地方或ハ他ノ區内ニ於テ建設シタル支店ノ
商標ハ其地方商法裁判所ヘ上稟ス可シ

支店ヲ設置スヘキ地方或ハ区内ニ於テ既ニ全商標トシテ時ハ
之ト判然異ナル附号ヲ支店ノ商標ニ加フ可シ

支店ヨリ其地方商法裁判所ヘ商標ヲ上稟スルトハ本店ニ於
テ其地方商法裁判所ヘ既ニ商標ヲ上稟セシメテ証セサル以
前ハ之ヲ為スルヲ得ス

第二十二條 何人ニ限ラズ現成レテタル商業ヲ契約或ハ讓受
ニ因テ之ヲ得シ者ハ若シ從來ノ營業人或其相續人或ハ時
トシテ發許ノ相續人ヨリ從來ノ商標ヲ存在スル事ヲ明證ヲ
以テ承諾セシ時ハ從來ノ商標ニ之ヲ繼承スル意ヲ表シタル
附号ヲ加ヘテ營業スルコト得ヘシ或ハ否サレモ營業ニ妨ケ無
シ

第二十三條 商標ヲ讓渡スニハ從前其商標ヲ以テ營ミ來リシ
商業ヲ併テ交付セズ單ニ商標ノミヲ以テスルヲ許サズ
第二十四條 若シ現成レテタル商業ニ社中トナワテ加入スル
者アリ或ハ新社ニ新クニ社員加入シ又ハ分派セシ時ハ此變
更ニ拘ハラズ從來ノ商標ヲ永續シ得ル可
但シ分派セシ社員ノ名昔レ商標中ニアル時ハ分派ニ際シ諒
眞ヨリ從前通り商標ヲ保存スルコトニ付テ明徴ナル承諾ヲ要
ス可シ

第二十五條 若シ商標ヲ變更セラレ又ハ消滅セラレ又ハ持主
自ラ變更セシ時ハ第十九條ノ成規ニ循テ、商法裁判所ニ上
稟スヘシ
前掲ノ事項若シ商業簡明簿ニ登録セズ又ハ廣告セズシテ
レ時ハ之ヲ為セシ者他人ニ對シ之ニ此事ヲ告知セシコトヲ証
スル以内ノミ抗抵スルコトヲ得可シ
但シ前掲ノ事項ヲ商業簡明簿ニ登録シ又ハ公告セシコトハ他
人此事ヲ詳悉セズ又ハ詳悉シ得カタキ事由ヲ証シタル以内
ハ此事ヲ詳悉シタルモノトシテ看做ス
第二十六條 商法裁判所ニ於テハ此章ニ干渉スル者第十九條
第二十一條第二十五條ノ成規ヲ正レテ格守セサル時ハ之
罰金ヲ課ス

並ニ此章ノ成規ニ循テ自己ニ適應ナル商標ヲ用ヒサル者ヲ
モ亦全ク前項ノ如ク処分スルモノナリ

第二十七条 何人ニ限ラズ或人ノ法則ニ悞ハサル商標ヲ用ヒ
タルカ爲メ損害ヲ被リタルモノハ其犯法者ニ係リ尔後其商
標ヲ廢止シ又ハ損害ヲ償フテテ訟ヘ得ヘシ
損失ノ現状及ヒ金額ハ商法裁判所ニ於テ臨機ニ判決ス可シ
此審判ノ公告ヲバ犯者ノ入費ヲ以テ裁判所ヨリ之ヲ発行ス
可シ

第四章

商業帳簿ノ事

第二十八条 各商人ハ其商賣事務及ヒ資産ノ現状ヲ明晰ニ見
得ヘシ帳簿ヲ作ルヲ以テ義務トス可シ

商人ハ領收書ニ商業ニ付テノ書牘ヲ保存シ及ヒ發遣シタル
商業ニ付テノ書牘ノ副本ヲ留置キ而シテ之ヲ其月日ノ順序
ヲ追テ抄冊ニ登錄スルヲ以テ義務ト為ス可シ

第二十九条 各商人ハ營業ノ着手ニ際シ其所有地貸付負債現
金ノ額數及ヒ其他ノ所有物ヲ明詳ニ登記シ併セテ所有物ニ
價直ヲ附記シ及ヒ資産ノ負債トテ對照シタル計算ヲ為ス可
シ故ニ商人ハ毎年右ノ件ヲ詳明ニスル為メニ明細簿及ヒ決
算目錄ヲ製ス可シ

商人其營業ノ性質ニ因リ毎年明細簿ヲ正シク整理シ其債
物ノ現状アル時ハ隔歳ニ之ヲ製スルモ妨ケナシ
此ノ法則ハ高社ノ所有物ニ付テモ亦通シ用ユ可シ

第三十条 明細簿及ヒ決算目錄ハ商人ノ姓名ヲ手署スルヲ要
ス
親自テ保任シタル社員數人アル時ハ都テ此ノ社員ノ姓名ヲ

手署ス可シ

明細簿及之決算目録ハ之ニ充テタル簿冊ヲ製シ終始之ニ記載ス可シ又ハ其編制毎ニ臨時制本ニ然ル後之ヲ合卷ニテ藏メ置クモ可ナリ

第三十一條 明細簿及之決算目録ヲ編成スルニ方リテ各種ノ資産及之貸附物ハ編成スル時ハ價ヲ以テ之ニ登記ス可シ又紛議ノ生レタル貸附ハ概算ヲ以テ登記ス可シ但シ絶ヘテ討完レ得ヘキ目的ナキ貸附ハ登記ス可カラス

第三十二條 商業帳簿及之其他切要ナル文書ヲハ現今成立レタル國ノ言語及之文字ヲ用テ記載ス可シ

簿冊ハ渾テ裱釘シテ一紙毎ニ順次番号ヲ附ス可シ規則上記載ス可キ場所ヲ剩白ス可カラス○既ニ記了シタル文字ヲ塗抹シ或ハ他ノ仕方ニテ讀ミ得難クシ或ハ削却スル

ルヲ得ス又原々登録スル時為セシカ或ハ追テ為セシ曖昧ナル模様ノ存キ換ヲ為ス可カラス

第三十三條 商人ハ商業帳簿ヲ徹尾マテ記了セシ日ヨリ起算シテ十年間之ヲ保存ス可シ但帳簿ノ證拠ハ十年ヲ經過スレバ効ナシ

此規則ノ領收シタル書牘明細簿及之決算目録ノ為ニモ亦通用フ可シ第三十四條 法式ニ協フタル商業帳簿ハ通常商人中ノ商業上ヨリ生ル

争訟ニ方ツテ誓言又ハ他ノ信憑補充ヲ藉リテ證拠ノ効即チ不ナリヲ具フ然レ裁判官タルモノハ諸般ノ事情ヲ参酌シ帳簿中ニ記載シ

タルモノニ証拠ノ効ヲ發分歸スルカ又ハ帳簿中争訟ニ關スル部分ト他ノ部分ト吻合セサル場合ニ於テハ全ク之ヲ信憑ト

シテ者做サレカ又ハ一方ノ者ノ帳簿ニノニ他ヨリ重キ信憑ヲ歸スヘキカ否ヲ臨機ノ見ヲ以テ審断スルヲ得ヘシ

商業帳簿ハ商人ニ非ル者ニ對シテ証拠ノ効ヲ有スルカ否ハ

各別法律ニ循テ決ス可シ

第三十五条 法式ニ悞ハサル帳簿ハ其及法ノ所為及ヒ情実並ニ事件ノ現状ニ因リ法官ニ至當トシテ認メラル、時ノ三唯証拠トシテ看做スヲ得可シ

第三十六条 高業帳簿ヲ記載スルイテ店役ニ委シテ為サシムルハ証拠ノ効ヲ損スルイナシ

第三十七条 争訟中ニ方リテ一方ノ相手ノ願ニ因リテ他ノ相手ニ帳簿ヲ差出スイテ法官ヨリ申渡スイテ得ヘシ若シ之ヲ差出サ、此時ハ証拠ヲ立シ者ノ為メニ帳簿中ニ於テ争訟ニ係ル事項ハ右差出レテ拒ミシ者ノ損失トシテ認メラル可シ

第三十八条 争訟中ニ帳簿ヲ差出シテアル時ハ帳簿中争訟ニ関係シタル部分ヲ双方相手立合ノ上展閲セシメ且ツ至當ノ場合ニ於テハ抜唇ヲ為スヲ許ス○帳簿中其他ノ部分ハ至當モ

法官ヨリ其記載方ノ合規スルマ否ヲ檢閲スルイテ要ムル時ハ之ヲ該官ノ縦覧ニ供ス可シ

第三十九条 差出ス可キ帳簿訴訟ヲ受理シタル裁判所ノ管下ノ場セサル地方ニ在ル時ハ其帳簿所在地ノ裁判所ニ照会シ該裁判所ニ於テ前條ノ例規ニ因リ帳簿ヲ差出サシメソレニ就テ正確ナル抜唇ト調唇トヲ送致スルイテ依頼ス可シ

第四十条 遺物相続財産共通会社分派及ヒ倒産ノ事件ニ付テ總テ帳簿ヲ詳悉ニ檢査スル為メ連累人ノ帳簿ニ至ル迄ヲ悉皆之ヲ差出スイテ法律上ヨリ命スルモノナリ

第五章

總任主管及ヒ專任主管ノ事

第四十一条 何人ニ限ラズ舖店ノ主人ヨリ其名ヲ以テ又ハ其計算ノ為メ高業ヲ取扱フイテ又ハ總任主管トシテ主人ノ高標

ヲ手署スルヲ委任セラレタル者ヲ總任主管トス
總任主管ヲハ總任主管タルヲ確徵シタル委任狀ヲ授与ス
ル一或ハ總任主管トシテ委任シタル明徵ヲ廣告スル一或ハ
總任主管トシテ主人ノ高標ヲ手署スルヲ委任シタル一ニ
因テ授任スルヲ得可シ
總任主管ノ權ヲ數人共同ノ上執行セシムルヲ得可シ之ヲ共
同總任ト云フ

第四十二条 總任主管ハ裁判上及ヒ裁判外ノ事務ト商業上ヨ
リ生スル契約上ノ談判トニ付テ之ヲ專決スル權アリ而シテ
各別ノ法律上特別ノ委任ヲ要スル各種ノ權理ヲ具有ス又總
任主管ハ專任主管及ヒ店役ヲ黜陟スル權アリ
總任主管ハ不動産ヲ賣拂ヒ及ヒ典當スル權アリ但シ此權ハ
特別ニ附与セラレ、時ニノニ限ル可シ

第四十三条 總任主管ノ權理ニ付テ限域ヲ立ツル一ハ他人ニ
對シテ法律ニ効ナシ主人ニ對シテ總任主管ハ其權限ヲ越
過スル一ヲ保任カ可シ
前項ノ成規ハ某ノ事務或ハ其支配或ハ某ノ地位或ハ某ノ時
或ハ某ノ地方ニ於テノニ特ニ總任主管ノ權ヲ付与スル制限
ヲ立ツル一ニ準用ス可シ

第四十四条 總任主管ハ其總任主管タルヲ表シタル附号ト
及ヒ自己ノ姓名トヲ主人ノ高標ニ併セテ手署ス可シ
共同總任主管ハ各自ニ其共同總任タルヲ表シタル附号ト
及ヒ各自ノ姓名トヲ主人ノ高標ニ併セテ手署ス可シ
第四十五条 總任主管ヲ授任シタル時ハ主人親自ラ或ハ公正
ノ証人ヲ以テ商業簿明簿ニ登錄ノ為メ高法裁判所、上稟ス
可シ而シテ總任主管ハ高法裁判所ニ於テ主人ノ高標ト自己

ノ姓名トテ供セテ年署參看四十四條ヲ或ハ公正ノ証書ヲ以テ証ス可シ

總任主管ヲ罷メシ時ハ主人ヨリ前掲ノ年続ニテ商業簡明簿ハ登録ノ為メ上稟ス可シ

以上ノ者職務上此成規ヲ履行セサル時ハ之ニ罰金ヲ課ス

第四十六条 總任主管ヲ罷メテ若シ商業簡明簿ハ記載セズ及シ廣告セサル時ハ主人事務ヲ結約スルニ際シ此事ヲ他人ニ告知セシテ証スル時ノニ唯他人ニ對シテ抗抵シ得可シ
若シ右ノ事件商業簡明簿ハ登録シ及シ廣告シテアル時他人事務ヲ結約スルニ際シ此事ヲ詳悉セズ或ハ詳悉シ得カタキ事情ヲ憑拠シ可キモノ無キ以テ此事ヲ詳悉シタルモノトシテ看做ス可シ

第四十七条 凡ソ何人ヲ論セス主人ヨリ總任ノ權ヲ得ルニシテ總任其商業ヲ經紀スル為メ又ハ或ル事務ニ付テ某ノ処分又ハ一箇ノ事務ニ付テ專任セラレタルモノ即チ專任主管ノ右事項ヨリ生ズル怒テノ事務及シ契約上ノ談判ヲ処分スル權ヲ有ス

但シ專任主管ハ特別ニ權ヲ与ヘラレ、時ノニ為換テ任組又ハ貸附金ヲ領収シ又ハ訴訟ヲ擔當スルヲ得可シ
其他專任主管ハ其權ヲ有シタル事務上トモ各々法律ニ制定シテアル特別ニ委任ヲ要スル權ヲ得ス

第四十八条 專任主管ハ各自ノ署名ニ付テ總任主管ノ意ヲ含ミタル附号ヲ署スルヲ得ス但シ專任主管タルヲ表シタル附号ヲ以テ署ス可シ

第四十九条 前二條ノ法則ハ主人ヨリ他方ノ商務ヲ処分セシ

ムル為ノ派遣シタル專任主管ニ付テ通シ用エ可シ此時ニ方
リテ專任主管ハ自ラ決定ノ上賣却シタル物品ノ價直ヲ討求
シ及ヒ延期スルノ權アリ

第五十條 凡リ何人ニ限ラズ店舖或ハ倉庫内ニ於テ授任セラ
レタル者ハ即チ通常該所ニ於テ生スル總テ賣捌及ヒ領収
ノ事ヲ執行スル權アリ

第五十一條 又何人ニ限ラズ物品或ハ計美唇ヲ送致スル者ハ
拂ヒ金ヲ領収スルノ權ナシ

第五十二條 總任主管及ヒ專任主管ノ其權理ニ循テ主人ノ名
ヲ以テ処分セシ契約上ノ事務ニ付テハ主人タルモノ他人ニ
對シテ其責メニ任ス可シ

右ハ事務ヲ明徴ニ主人ノ名ヲ以テ処分スル氏或ハ否サルモ
之ヲ主人ニ代リテ所決シタルモノト條約人ニ認メラレ、情

況アル以内ハ共ニ同様タル可シ

何様ノ事ヲ論セス總任主管或ハ專任主管ト他人トノ間ニ於
テハ權利及ヒ義務アラズ

第五十三條 總任主管及ヒ專任主管ハ主人ノ承諾ヲ得スレテ
其權利ヲ他人ニ附与スル事ヲ得ス

第五十四條 總任及ヒ專任ノ權ハ任職上固有ノ權理ヲ障害セ
ズ何時ナリ共回收スルヲ得可シ

主人死去スルト雖モ總任主管及ヒ專任主管ノ權理ハ依然ト
シテ消滅スルヲ無シ

第五十五條 何人ニ限ラズ總任及ヒ專任ノ權ヲ得スレテ總任
主管及ヒ專任主管トナリテ商業事務ヲ結約セシモノト及ヒ
事務ヲ結約スルニ際シ其委任ノ權域ヲ犯セシ專任主管トハ
他人ニ對シテ高法ニ循テ親自ラ其責ニ任ス可シ他人ニ於

ラハ該人ヲシテ其損失ヲ償ハシムル氏又ハ其義務ヲ完了セ
シムル氏隨意ノ公訴ヲ為シ得可シ
若シ他人ニ於テ該背法ノ一ヲ詳悉シテカテ該人ト結約スル
時此限りニ非ス

第五十六条 總任主管及ニ專任主管ハ主人ノ承諾ヲ得テ
自己ノ為メ或ハ他人ノ為メニ商業ヲ經營スルヲ得ス
主人タルモ若シ該人ニ總任或ハ專任ノ權ヲ与フルニ方リ
テ該人ノ自己ノ為メ或ハ他人ノ為メ商業ヲ經營シテアル日
ヲ詳悉シテカテ之ヲ廢絶スル一ヲ要約セサル時ハ主人ノ承
諾ヲタルモトシテテ者做ス

總任主管及ニ專任主管此法則ヲ遵奉セサル時ハ主人是ヨリ
釀生シタル損害ノ賠償ヲ要スル一ヲ得ヘシ及總任主管及ニ
專任主管ハ主人ヨリ自己ノ為メ商業シタル商業ヲ主人ノ為

メ經營シタルモノトシテ認メテハ此要求ニ順テサル可
カラス

第六章

店役ノ事

第五十七条 給料及ニ食料ニ對シテ店役ノ勤務ノ性質及ニ權
理ニ付テ契約ヲ欠ク時ハ地方ノ習慣法又ハ法官ノ意見ヲ隨
ヒテ定ムルモノトス己ムヲ得サル場合ニ於テハ其道ニ通曉
シタル者ノ意見ヲ以テ定ム可シ

第五十八条 店役ハ主人ノ為メ或ハ主人ノ名ヲ以テ契約上ノ
事務ヲ処分スヘキ權ヲ得ル
但シ主人ヨリ之ヲ委任スル時ハ專任主管ノ法則ヲ準用ス可

第五十九条 店役ハ主人ノ承諾ヲ得スレテ自己ノ為メ或ハ他

人ノ為メニ商業ヲ営ムコトヲ得可ラス是ニ付テハ總任主管及
之專任主管ノ規則ヲ準用ス可シ

第六十条 店役不虞ノ災害ニ罹リ勤務ヲ執行スルヲ能ハサル氏
其為メニ給料及ニ食料ニ付テハノ權利ヲ損傷スルコトアラス但
レ此恩惠ハ唯六週間以内ニ限ル可シ

第六十一条 主人ト店役トノ間タノ職務上ノ關係ハ何レノ一
方ナリト一季ヲ經過スル前豫メ六週間以内ニ謝絶スルニ於
テハ之ヲ休止スルヲ得ヘレ但レ此日限ヲ多少伸縮
シタル契約アル時ハ此限りニ非ス

商業弟子ノ修業年月ハ修業條約各ニ循テ決定スヘレ若シ之
ニ明文ヲ欠ク時ハ地方ノ法律或ハ習慣法ニ因テ決定ス可シ

第六十二条 主人ト店役トノ間タノ職務上ノ關係ハ定期第六
十一
條ヲ參看ノ前ト雖モ己ムヲ得サル事故アル時ハ何レノ一方

ヨリナリ氏之ヲ休止スルヲ得ベシ

此事故ノ判断ハ裁判官ノ意見ニ從フ可シ

第六十三条 店役主人ニ對シテ其職務上ノ關係ヲ主人ヨリ其
給料或ハ食料ヲ支給セス又ハ其身体ヲ毀傷シ或ハ名譽ヲ損
害セラレ、時ハ之ヲ特別ニ謝絶スルヲ得可シ

第六十四条 主人店役ニ對シテ其職務上ノ關係ヲ左ノ場合
於テハ特別ニ謝絶スルヲ得可シ

第一款 店役其勤務ヲ執行スルニ方リテ忠實ナラス又ハ委
託ニ負ク時

第二款 店役主人ノ承諾ヲ得スレテ自己ノ為メ又ハ他人ノ
為メニ商業ヲ經營スル時

第三款 店役其勤務ヲ避ケテ執行セス或ハ現時忽諸ニス可
カラサル事機ニ臨ンテ真ニ故障アラスレテ勤務ヲ委棄シ

テシ

テ執行セサル時

第四款 店役其勤務ヲ長病、（疾）長キ拘留或ハ衣キ不在ニ因
リテ執行セサル時

第五款 店役故意ニシテ人ノ身体ヲ毀傷シ或ハ名誉ヲ損害シ
タル時

第六款 店役醜穢ナル行迹アル時

第六十五条 商業ヲ經紀スルニ際シ傭夫ノ役ヲ執ル者ノ為メ
ニハ傭夫勤務上ノ管係ノ為メ制定シタル法律ヲ準用ス可シ

第七章

商業世話人ノ事

第六十六条 商業世話人ハ渾テ官ヨリ任セラレタルモノニシ
テ商業事務ノ媒人ナリ

商業世話人ハ其職ニ就ク前ニ其勤務ヲ忠實ニ執行ス可キ誓

言ヲ為ス可シ

第六十七条 商業世話人ハ依頼人ノ為メニ貨物、船舶、為替券、（門）
外國ノ債券、株券及ニ其他商業上ノ証券ヲ賣買スルト又ハ船
船係ル保償、（担）荷積及ニ概シ入テ契約スルト並ニ海陸ノ
運輸及ニ其他商業ニ管係シタル事項ヲ契約スル事ヲ斡旋ス
ルモノナリ

商業世話人ハ依頼セラレタル事務ヲ媒介スルトヨリシテ金
錢ノ拂ヒ及ニ契約昏中ニアル義務ヲモ亦擔当スルモノトシ
テ悉ク做ス可カラズ

第六十八条 商業世話人ヲ授任スルニ凡ヘテ商業世話人ニ関
スレ諸般ノ事項ノ世話人トシ或ハ其中ノ一事項ニ付テノ世
話人トシテ命ス

第六十九条 商業世話人ハ特ニ左ノ義務ヲ負フモノトス

第一款 高業世話人ハ直接又ハ間接ヲ問ハス自己ノ為メニ
高業ヲ經營スル事、問屋ト成レ事、其斡旋スル事務ヲ完了ス
ル為メニ自ラ契約スル事及ヒ保証人ト成ル事ヲ得可カラ
一但シ之ヲ犯スハ罪ヲ其事務ノ法ニ協フタルモノニ至リ
テハ傷害アルト無シ

第二款 高業世話人ハ總テ商人ノ為メニ總任主權專任ヲ管
或ハ店役ノ位置ニ立ツヲ得ス

第三款 一ノ高業世話人ト他ノ高業世話人ト高業世話人ニ
関スル諸般ノ事務又ハ其一部ヲ彼此共同シテ營ム為メ連
合スルヲ得ス但シ每事務依託人ヨリ特ニ之ヲ許ス時ハ此
限リニアラス

第四款 高業世話人ハ其職務ヲ親自ラ執行セサル可カラズ
且ツ事務ヲ結約スルニ臨ミ補助人ト為ルコトヲ得可カラズ

第五款 双方ノ契約ヨリ或ハ事務ノ性質ニ因テ高業世話
人ニ異議ヲ許サレ以内ハ高業世話人其事務ニ付テ著ク
ヨリ結局ニ至ルマテ終始沈黙シテ務ム可シ

第六款 高業世話人ハ何等ノ事務ヲ問ハス双方ノ相手又ハ
其委實ヨリ口宣昏或ハ面命ヲ以テ為レタル承託ヲ受ルヨ
リ外他ノ証拠ヲ要セス而シテ相手ノ現時不在ニ於テ其囑
託ヲ受ケ及ヒ仲買人ノ斡旋ヲ為ストテ得可カラズ

第七十条 船舶世話人ハ荷物積貨及ヒ其他ノ諸費ヲ徴シ或ハ
豫支スルニ際シ船主ノ為メニ勘定方ト成リ其他地方習慣ノ
處分ニ付テハ補助人ト成リ之ヲ取扱フテ許スモノナリ

第七十一条 高業世話人ハ手帳帳ノ外ニ渾テ其結約シタル諸
般ノ事務ヲ日々記載ス可キ日記帳ヲ製シ其登錄毎トニ日々
姓名ヲ手署セサル可カラズ

日記帳ヲ使用スル前ニ一紙毎トニ順次ノ番号ヲ記シ其数ノ
確實ナルヲ表スル為メニ高法裁判所ハ差出ル可シ

第七十二条 日記帳中ニハ双方條約人ノ各條約決定ノ時日事

務ノ件名勤務ノ約束等ニ物品ヲ賣却スルトニ付テハ該品ノ

種類数量價直及ヒ引渡シノ時日トヲ登録ス可シ

此日記帳ハ獨逸語ニテ登録スルヲ以テ則トス然レモ或ハ地

方ニ因リ異リタル商業上ノ成語アル以上ハ之ヲ用エルモ妨

ケ無レ尤モ時日ノ順序ヲ追ヒ刺白ナク登録ス可シ

商業帳簿ヲ登録スル成規第三十二条ヲヲ商業世話人ノ日記

帳モ亦通シ用ユ可シ

第七十三条 商業世話人ハ事務ノ結約セル後ニ至リ前條ニ於

テ登録ノ標目トシテ顯ハレタ事務ヲ記載シタル結約票

姓名ヲ手署シテ直キ一方ノ契約人へ交付ス可シ

現時益キニ纏結セサル事務ニ際シテハ商業世話人結約票ヲ

双方ノ契約人へ其姓名ヲ手署スルハ為メニ交付シ而シテ

双方名署畢リタル後々彼此交互シテ復タ之ヲ送致ス可シ

若シ一方ノ契約人結約票ヲ領收シ或ハ署名スルヲ拒ム時ハ

商業世話人直キニ他ノ一方ノ契約人へ之ヲ報知セサル可カ

ラス

第七十四条 商業世話人ハ何時ニテモ双方ノ契約人ノ要求ニ

因ラ之ニ関涉スル諸般ノ事務ヲ具載シテアル日記帳中ニ就

テ真確ナル抜唇ヲ之ニ附与スルヲ以テ義務トス

第七十五条 商業世話人死去シ又ハ免黜セラレシ時ハ其日記

帳ヲ官署へ差出ス可シ

第七十六条 商業世話人ノ世話ニタル契約ヲ結了スルハ之

ヲ日記帳ニ登録シタルト結約票ヲ交付レタルトニ拘ハラス

レテ為シ得可シ

右日記帳ニ登録シ及シ結約票ヲ交付スルハ唯契約ヲ結了
シタル信憑ト為スル也

第七十七条 商業世話人ノ法式ニ協フタル日記帳及シ結約票
ハ通常事務ヲ結約セルハ及シ其細目ノ信憑ニ供スルヲ得可
シ
然シ裁判官タルモノハ日記帳及シ結約票中ニ登録シタルモ
ノヲ專ラ依憑トナサズ氏或ハ商業世話人ヲシテ誓言又ハ他
ノ証左ヲ以テ之ヲ保證セシムルハ要スル氏或ハ双方ノ契
約人ノ結約票ヲ領收シ及シ署名スルハ拒ミシハ事件ヲ審
判スルニ緊要ト為ス氏渾ラ其事情ヲ視察シテ然ル後其意見
ニ隨テ判決ス可シ

第七十八条 商業世話人ノ法式ニ協ハサル日記帳ハ其法式

ニ背キタル位方及シ其趣ト事件ノ情勢トニ因リ法ニ協フモ
ノトシテ裁判官ニ認メラル、時クニ信憑トナスハ得

第七十九条 筆証中ニ方リテ裁判官ハ双方契約人ノ上票ニ因
テフシテ日記帳ヲ視察スル為メ或ハ之ト結約証扨抜扨及シ
其他ノ信憑ト對照スル為メ之ヲ差出サシム可シ

第三十九条ノ定規ヲ此日記帳ヲ差出スルハ為メニモ亦通シ
用ユ可シ

第八十条 双方契約人ヨリ又ハ地方ノ習慣ニ因テ貨物ノ各種
ニ付テ商業世話人ノ管係ヲ免除セサル以内ハ商業世話人々
ルニ凡ハテ其世話ヲ以テ鑑視物ニ因テ買入レシ貨物ニ付
テ後々ニ鑑視物ヲ照鑑ノ為メニ契約人ニ示セシ後ト至モ
猶此貨物ノ性質ニ付テ故障無シニ受授了リ又ハ此事務他ノ
方法ヲ以テ完了スル迄ハ鑑視物ヲ藏置セサル可カラス

第八十一条 渾テ商業世話人ノ法ニ背キタル為メ損害ヲ被リ
シ契約人ハ該人ニ對シ損害ノ償ヲ要スル權アリ

第八十二条 商業世話人ハ條約ヲ決定セシ時又ハ豫約シタル
事件ヲ纏結セシ時又ハ結約票ヲ交付シテ其義務ヲ尽セシ時
ハ地方ノ定規又ハ習慣法ニ如何ナル例規アル氏之ニ拘ハラ
ス即時其世話料ヲ要スルヲ得可シ

若シ契約未結了セス又ハ豫約シタル事件ノ未タ纏結セサ
ル時ハ其周旋ヲ為シタル為メニ世話料ヲ要スルヲ得可カラ
ス

商業世話人ノ世話料ノ額ハ地方ノ定規ニ循フ可シ若シ該法中
ニ於テ之ヲ欠ク時ハ地方ノ習慣法ニ循フテ定ム可シ

第八十三条 商業世話人ノ世話料ヲ双方契約人ノ間ニ於
何レノ一方ニテ拂フ可キヲ契約シテアラバ且ツ地方ノ定

規及ニ習慣法ヲ欠ク場合ニ於テハ双方其額數ヲ折ラシテ之
ヲ拂フ可シ

第八十四条 商業世話人ヲ授任スル方法及ニ其職掌ニ背犯シ
タル過失ノ罰則ニ付テ要件ヲ定ムルハ各州ノ法律ニ讓ル
モノナリ

又此章ノ定規ヲ地方ニ適切ナク定規ニ循フテ増補スルハ特
ニ商業ヲ世話スルニ付テ條約ヲ決定スル權ヲ商業世話人ニ
与ヘ得可キヲ増補スルハ各州ノ法律ニ讓ルモノ也

又各州ノ法律或ハ地方ノ定規ニ因リテ此章ニ於テ商業世話
人ニ歸スル職掌權限及ニ義務ノ限域ヲ伸縮スルヲ得可シ

第二章 高社ノ事

第一章

共同高社ノ事

第一節

会社設立ノ事

第八十五條 二人乃至數人ニテ共通ノ高標ヲ以テ一商業ヲ営
ミ且其社負タルモノハ當ニ放銀ヲ以テスルノミナラズ自己
ノ全産ヲ保セテ高社ノ義務ニ對シテ保任スルモノヲ共同高
社ト云

会社ノ條約昏ハ公正ノ証昏又ハ其他ノ法式ヲ以テ証スルヲ
要セス

第八十六條 共同高社ヲ設立スルニ付テ之ヲ商業簡明簿へ登
記スル為メ其店舗ヲ設置スル地方ノ高法裁判所并ニ其支
店ヲ設置スル各地方高法裁判所へ社負ヨリ上稟ス可シ
上稟ノ事項即チ左ノ如シ

第一款 各社負ノ姓名種族及ニ居所

第二款 高社ノ高標及ニ高社設置ノ地名

第三款 高社ヲ開ク期日

第四款 社中ノ一負乃至幾許負ニテ会社ヲ代理スル事ヲ契
約シテアル場合ニ於テハ即チ其款條或ハ全社負連帶シテ

会社ヲ擔任ス可ク契約シテアル時ハ即チ其款條

第八十七條 既ニ成立シテアル高社ノ高標ヲ變更スル時或ハ
高社ヲ他ノ地方へ轉移スル時或ハ高社へ新ニ社負ノ入社セ
シ時或ハ一社負へ会社ヲ代理スル權ヲ追テ付与シ又ハ之ヲ
收回セシ時ハ此事ヲ商業簡明簿へ登記スル為メニ高法裁判
所へ上稟ス可シ

高標ヲ變更セシ事会社ヲ轉移セシ事或ハ会社ヲ代理スル權
ヲ收回セシ事ヲ上稟シ而シテ之ヲ廣告シ又ハ否カセサル場

合ニ於テ他人ニ對シテ法律上ノ効ハ第二十五條ノ定規ニ循
フ可シ

第八十八條 第八十六條及之第八十七條ノ上稟層ヲハ全社員
商法裁判所ニ於テ姓名ヲ手署シ又ハ公正ノ証層ヲ以テ証シ
タル後層記官右ノ全文ヲ商業簡明簿へ登記ス可シ

自己ノ姓名ヲ手署シ又ハ公正ノ証層ヲ以テ証ス可シ

第八十九條 商法裁判所ニ於テハ右所載セシ人眞ヲシテ第八十
六條ヨリ第八十八條迄ノ定規ヲ遵守セシムル爲メニ之ヲ違
背スル時ハ罰金ヲ課ス

第二節

社員ノ間ニ於テ契約上ヨリ生スル関涉ノ事

第九十條 社員ノ間ニ於テ契約上ヨリ生スル関涉ハ主トシテ

会社ノ契約ニ循フ可シ

此節中是ヨリ以下ノ條款ニ於テ掲載シタル事項ニ付テ契約
ノ抵觸セサル以内ハ此條ノ成規ヲ準用ス可シ

第九十一條 金貨其他消費シ得可キ及之換用シ得可キ物品換

レ得ヘキ物品ハ今茲ニ某列ノ米一石價金貨十圓ニ換
ノアリ然ルニ之ト同品位及之同數量ナル時ハ他列ノ米ヲ以
テ之ニ換用スルモ亦價直ニ於テハ差違無キモノヲ云又消費シ得可カラサル及之換用

シ得可カラサル物品ヲ當ニ社員利益配分ノ目的ノニ非ス
又社中總決案ノ目的ノ爲メニ代價ニ積リテ之ヲ会社へ納メ

タル以上ハ其物總テ商社ノ所有物タル可シ第百四十三條
ヲ參看ス可シ一社員ノ所有タル動産又ハ不動産全社員ノ姓名ヲ手署シタ

ル商社ノ明細簿中ニ登録シテアル以上ハ之ニ付テ紛議生ス
ルモ会社ノ所有物タル可シ

第九十二條 社員タルモノハ契約上ノ定額ヲ踰越シテ放銀ヲ

増加シ又ハ損失ニ因テ減額シタル放銀ヲ補充スル義務アリ
ス

第九十三条 社員ニテ会社ノ事件ニ付テ拂フタル金額又ハ会
社ヲ為メニ引請ケタル契約又ハ自身ニテ社務ヲ執行スルニ
際シ或ハ該事務ニ對シ避ク可カラサル危難ニ因テ被ルリタ
ル損失ハ總テ会社ノ責任タル可シ

社員タルモノ会社ノ為メ自己ヨリ拂フタル前金ニ付テハ其
金ヲ拂ヒシ日ヨリ起算シテ会社ヨリ其息銀ヲ要スル事ヲ得
可シ

社務ヲ執行スル勤勞ニ對シテハ社員其報銀ヲ要スル権理無
キモノナリ

第九十四条 各社員会社ノ事務ニ付テハ之ヲ自己ノ事務ト同
視シ勉勵注意スルヲ以テ義務トス可シ

各社員其過失ニ因リ会社ハ生セシ損害ハ会社ニ對シテ自身
ニ之ヲ保任ス可シ此損害ヲ他ノ場合ニ於テ自己ノ勉勵ニ因
テ会社ハ生セシ利益ト差越ヒテ計算スルヲ得可カラス

第九十五条 社員其放銀ヲ定約ノ期日ニ差出サス又ハ領收シ
タル会社ノ金ヲ期日ニ該金庫へ戻シ入レズ又ハ恣ニ会社ノ
金ヲ私營ノ為メニ受取ル時ハ其金ヲ差出ス可キ期日又ハ恣
ニ受取リタル日ヨリ以來ノ息銀ヲ拂フヲ以テ必ス義務ト
為ス可シ

右義務ヲ負荷スル氏此事ヨリシテ会社ハ釀生シタル損害ヲ
償却スル義務及ヒ其他ノ事務ニ付テ契約上ノ干係ヲ免ル
ヲ得可カラズ

第九十六条 一社員他ノ社員ノ承諾ヲ得スレテ会社商業ノ反
派ニ屬スル事務ヲ自己ノ為メ又ハ他人ノ為メニ經營シ或ハ

裁
省

公然池ノ類似ノ商社へ社員ト為リテ入社スルヲ得可カラ
ス
右他ノ類似ノ商社へ加入スルハ社員本社ニ加入スルニ方
リテ其餘ノ社員へ公然社員ト為リテ他ノ類似ノ商社へ加入
シテアルヲ報知シ而シテ之ヲ明確ニ禁止セサル時ハ黙許
シタルモノトシテ看做ス可シ

第九十七条 前条ニ掲載シタル定規ヲ犯セシ社員ハ会社ノ要
求ニ同リテ其私利ノ為メ經營シタル事業ヲ会社ノ為メニ經
營シタルモノトシテ看做サル之ヲ拒ムヲ得可カラ又
会社ハ此要求ニ換ヘテ此事ヨリシテ会社ニ生シタル損害
ヲ該人ニ償却セシムルヲ要求シ得可シ而シテ会社ハ此要
求ヲ為セレ為メニ適宜ノ場合ニ於テ会社ノ條約ヲ解散スル
権理ニ妨害アラヌ

前兩件ヲ要求スル会社ノ権理ハ社員ノ私ニ事業ヲ結約セシ
トテ覺知セシ日ヨリ起算シテ三月以外ニ至リ消滅スルモ
トス

第九十八条 一社員其餘ノ社員ノ承諾ヲ得シテ他人ヲ会社
へ加入セシムルヲ得可ラス
一社員自己ニ其配賦ヲ他人ト共分シ又ハ之ヲ他人へ賣与ス
ル時ハ之ニ付テ他人会社へ對シ直接ノ権理ナシ特ニ商社ノ
帳簿及ヒ文書ヲ視察スルノ権ヲ得可カラヌ

第九十九条 若シ社務ヲ執行スルヲ條約上ニテ社中ノ一員
乃至數員ニ委任シテアルニ方リ該員ハ自餘ノ社員ヲ此事ニ
干与セシメス且シ其異議ヲ顧慮セズモテ会社本業上ヨリ生
スル事務ノ処分ヲ擔當スル權アリトス

第一百条 若シ社務ヲ執行スル事ヲ社員ノ數名ニ明徴ヲ以

テ該各員協議同意ノ上ニ非レハ執行スルヲ得可カラサル權
限ヲ立テ、委任セララルニ方テ危急ノ時ニ非レ以内ハ決
テ一員ニテ事務ヲ独断スルヲ得ヘカラス
此明徴ヲ以テ定メタル權限アラスレテ社員ノ數名ニ事務ヲ
執行スル一ヲ委任セララルニ方リテハ其中ノ一員異議ヲ發
セシ事件ニ非ル以内ハ總テ委任中ニ屬スル事務ヲ各人各自
ニ擔當スルヲ得可シ

第百一条 会社ノ條約昏ヲ以テ社員ノ一名乃至數名ニ事務ヲ
執行スル一ヲ委任セララル時ハ本社存在中正シキ事故アリ
レテ之ヲ解任ス可カラス

此事故ノ当否ヲ判断スル一ハ裁判官ノ意見ニ付ス
第百二十五条ノ第二款ヨリ第五款迄ノ場合ニ於テハ特ニ解
任スル一ニ至當ナリトス

第百二条 若シ会社ノ條約昏ニ事務ヲ執行スル一ヲ社中ノ一
員乃至數員ニ委任セララサレニ方リテハ事務ヲ執行スル
ニ付テ全社員同等ニ權理及ニ義務ヲ有ス
事務ヲ所分スルニ方リテ一社員ヨリ異議ヲ立ル時ハ其事ヲ
施行スルヲ得可カラス

第百三条 会社ノ經紀スル平常ノ事務ニ非ス又ハ商社ノ目的
ニ及ミタル事務ノ処分ニ付テハ全社員ノ決議ヲ要セサル可
ラス

前掲ノ事項ハ社中ノ一員乃至數員ニ事務ヲ執行スル一ヲ委
任セラレ時モ亦全様タル可シ
此決議ハ投票ヲ以テ定ムル一ヲ要ス○若シ決議ヲ要ス可キ
事務ニ付テ投票一致セサル時ハ其事ヲ執行スルヲ得可カラ
ス

第百四条 總任主管ヲ授任スルニ付キ緊急ノ場合ニ非ル以内ハ社務執行人一全ノ承諾ヲ要ス若シ此執行人ヲ欠ク時ハ全社員ノ承諾ヲ要ス

解社ニ付テモ亦其授任ノ權ヲ有シタル各社員ヨリ施行スルモノナリ

第百五条 縱使直接ニ社務ヲ執行スルニ干与セサル各社員タリトモモ会社ノ事務ノ成迹ヲ親自ラ監督スルニ得可ク又何時タリモ会社ノ事務局ニ出入シ帳簿及ヒ文書ヲ視察シ之ヲ憑拠トシテ自己ノ檢閲ノ為メニ決算目錄ヲ作為スルヲ得可シ

会社ノ條約旨ニ於テ右ニ異リタル他ノ契約アルモ社務ヲ執行スルニ付テ不正ノ処分アルニ付テハ此契約ハ其効ヲ失フ者トス

第百六条 毎歳尾ニ至リ各社員ノ放銀及ヒ会社ノ資産ニ於テ該員ニ屬スル配賦高ハ百分ニ付キ四分ノ息銀ヲ該員ノ為メ入りノ部ニ記ス可シ但シ其放銀前年ノ歳尾ニ於テ利益配賦計算ニ因リテ増額シテアルモ或ハ損失配賦計算ニ因リテ減額シテアルモ之ニ拘ハラサル可シ又營業年度中配賦高ヨリ請取リタル金額ニ付テハ該員ノ為メニ前同額ノ息銀ヲ出シ部ニ立ツ可シ

各社員ニ屬スル息銀ハ会社ノ資産ニ於テ該員ノ配賦高ニ増加ス可シ

此息銀ヲ消却セサル以前ハ会社ニ於テ絶ヘテ利益ヲ現出セズ而シテ其為メ会社ノ損失ヲ増加シ或ハ之ヲ醸生ス

第百七条 毎歳尾ニ至リ明細簿及ヒ決算目錄ニ因拠シテ本年ノ利益又ハ損失ヲ精覈シテ而シテ各社員ノ為メ其配賦高ヲ

計算ス可シ

各社負ノ利益ハ会社ノ資産ニ於テ該負ニ属スル配賦高ハ入
リノ部ニ立テ又損失ハ出ノ部ニ立ツ可シ

第百八条 一社負自己ノ放銀及ヒ会社ノ資産ニ於テ自己ニ属
スル配賦高ヲ自餘ノ社負ノ承諾ヲ得スレテ減却スレテ得ス
但シ此承諾ヲ得スル前年内ニ於テ会社ニ一般ノ損失アラサ
リシ以内ハ会社ノ資産ニ於テ自己ニ属スル配賦高ヨリ前年
分ノ息銀ヲ前年ノ利益配賦高ヲ超過セサル額數迄受取ルヲ
得可シ

第百九条 利益及ヒ損失ヲ配賦スルニ付テ別ニ條約ナキ時
ハ社負ノ分頭ニ應シ平均ニ配賦ス可シ

第三節

會社社外ノ人ニ對シテ契約上ヨリ生スル管涉ノ事

第百十條 共同会社ト社外ノ人トノ管涉ハ会社ヲ設立スルニ
テ高業簡明簿ニ登記シ畢リシ日又ハ唯社務ヲ着手シタル日
ヨリ法律上ノ効アリトス

右高業簡明簿ニ登記ノ日ヨリ後レタル日ヲ以テ会社ト社外
ノ人ト契約上ノ管涉ノ初ト為シタル期限ハ他人ニ對シテ法律
上ノ効ナシトス

第百十一條 会社ハ其高標ヲ以テ權利ヲ有シ及ヒ契約ヲ結ビ
又不動産ニ付テ所有及ヒ其他ノ權利ヲ有シ並ニ訴訟ニ付テ
原告又ハ被告トナルヲ得可シ

会社ハ其舖店存在ノ地方裁判所ノ管轄ニ属ス可シ

第百十二條 社負ハ会社ノ諸般ノ契約ニ付テハ自己ノ全資産
ヲ以テ各自ニ保任ス可シ

右ニ反シタル規則ハ法律上ノ効ナシトス

第百十三條 何人ニ限ラズ既ニ成立シテマル高社へ加入シタ
ル者ハ其加入前ニ該社ニ於テ取結ビテアル諸般ノ契約ニ對
シテ此加入スルノ為メニ該社ノ商標ヲ變更スルト否トニ
管セス他ノ社負トホレク保任スヘシ
右ニ反シタル契約ハ法律上ノ効ナシトス

第百十四條 会社ノ代理タル可キ權ヲ有シタル各社負ハ諸般
ノ事務及ヒ契約上ノ懸合ヲ会社ノ名ヲ以テ処分スルヲ得可
シ特ニ会社ニ屬スル不動産ヲ賣却シ及ヒ典當スルヲ得可シ
会社ノ代理タル可キ權ヲ有シタル社負ヨリ会社ノ名ヲ以テ
所決セシ契約上ノ事務ニ對シテ会社ハ該負之ヲ明確ニ商社
ノ名ヲ以テ所決セシ氏或ハ之ヲ條約人ヨリ商社ノ為メニ所
決シタルモノトシテ認ル事情アルトテ問ハス權理及ヒ義務
ヲ有ス

第百十五條 会社ノ代理タル可キ權ヲ有セス第百十六條ヲ及
ヒ此權ヲ失フタル參看ス可シ社負ノ所決セシ契約上ノ事
務ニ對シテ会社ハ此社負ノ權ヲ有セサル一及ヒ失フタル一
ヲ第四十六條ノ總任主管ヲ解任スルニ付テ確然他人ニ對シ
テ法律上ノ効ヲ得可キ成規ニ循テ処分シタル以内ハ義務ヲ
負荷セス

第百十六條 会社ノ代理タル社負ノ權ヲ限制スル一ハ他人ニ
對シテ法律上ノ効ナシ特ニ某ノ事務及ヒ其支派或ハ某ノ管
係或ハ某ノ時及ヒ某ノ地方ニ於テ之ニ代理ノ權ヲ付与スル
限域ヲ立ツルヲ禁ス

第百十七條 会社ノ代理タル可キ權ヲ有シタル社負ハ会社ノ
代理トシテ法院へ出ツルヲ得可シ
会社ヨリ官府ノ召ニ應レ又ハ他ノ事件ニ付テ人ヲ派遣スル

ニ方リテ此事ヲ会社ノ代理タル可キ權アル社中ノ一員ニテ
弁理セハ多眞ヲ要セスレテ可ナリ

第百十八條 總仕主管ノ投任及ニ解任ハ会社ノ代理タル可キ
權アル社中ノ一員ニテ之ヲ為ストモ他人ニ對シテ法律上ノ
効アリトス

第百十九條 社員ト相對ノ債主ハ会社ノ所有ニ屬スル社員ノ
物虽貸付權理或ハ配賦高ヲ其貸金ノ抵償トシテ差押ヘルノ
權無シ○唯息銀及ニ利益配賦ニ付テ社員ノ受取り得可キモ
ノト社中總決案ノ時社員ニ歸スルモノトノニ該債主ノ為メ
裁判所ヨリ之ヲ糶賣シ又ハ差押へ又ハ一時該署ニ預リ置ク
ヲ得可シ

第百二十條 法律上又ハ契約上ヨリレテ社員ノ資產ニ付テ典
當上ノ權ヲ有スル社員ト相對ノ債主ニモ亦前條ノ定規ヲ準
用ス可シ

此典當上ノ權理ヲ会社ノ所有ニ屬スル社員ノ物品貸附權理
或ハ配賦高ニ施スルヲ得スト亦モ唯前條ノ次項ニ掲載シタ
ルモノニノモ施スルヲ得可シ
但シ社員ヨリ会社ノ所有ニ歸シタリシ物品ト亦モ会社ニ送
致スル際既ニ之ニ存セレ典當上ノ權ハ前條ノ定規ノ為メニ
扞捨スルヲ無シ

第百二十一條 会社ヨリ他人ヘノ貸付ト他人ヨリ相對ニテ社
員ヘノ貸付トノ間タニ於テ会社連綿スル以内多少ノ間ハス
差越テ勘定ヲ為スヲ得可カラスト亦モ若シ会社解散ノ後社
中總決案ノ際ニ於テ会社ノ貸附ヲ社員ヘ附与スル時ハ此限
ニ非ス

第百二十二條 会社倒産ノ場合ニ方リテ会社ヘ係ル債主ハ會

社ノ資産ヲ分配シテ其賠償ニ充テ其餘尚ホ不足ノ分ヲ又該社各員ノ私産ニ付テ分配スルコトヲ要シ得可シ但シ社員ト相對ノ債主ヘモ亦右社員ノ私産分配ニ関与スルノ権理ヲ与フルカ或ハ此権理ヲ幾分与フルカ否ヲ制定スル下ハ各別ノ法律ニ譲ルモノナリ

第四節

会社ノ解散及ヒ会社ヨリ社員ノ分離スル事

第二百三十三條 会社ハ左ノ條款ニ因リテ解散スルモノナリ

第一款 会社ヘ例産ノ言ヒ渡シアル時

第二款 一社員死去スルニ猶ホ其相続人ト会社ヲ持續ス可キコトヲ條約昏ニ確定シテアラサレハ即チ社中ノ一員死去セル時

第三款 一社員ノ資産ヘ例産ノ言渡シマリ又ハ社中ノ一員

ハ法律上治産ノ禁アル時

第四款 社中各員ノ間タニ於テ解散ヲ同意スル時

第五款 会社ノ營業期限已ニ經過スルニ方リテ社員ヨリ之ヲ上稟スル時但シ此場合ニ於テ社員之ヲ黙過スル時ハ之ヲ無期ノ会社トシテ看做ス

第六款 無期ノ会社タリトモ其社員ヨリ解散センコトヲ上稟スル時

但シ社員畢生間持續ス可キ目的ノ会社ハ無期会社トシテ看做ス

第二百二十四條 無期会社解散スルコトヲ上稟スルニ付テ別段ノ契約アラサル以内ハ社員ヨリ遅クモ其營業シテマシ歳ヲ經過スル前六ヶ月ニ於テ之ヲ為ス可シ

第二百二十五條 社員ヨリ会社營業ノ期限未タ經過セサル前又

ハ無期会社ニシテ前条ノ上稟ヲ為サスト強モ適切ナル事故
アル以内ハ会社ノ解散ヲ請求シ得可シ
前件ニ付テ抗抵スルモノアル場合ニ於テハ右事故ヲ受理ス
可キカ否ハ裁判官ノ意見ニ随テ審判ス可シ
左ノ條款ニ於テハ特別ニ会社ノ解散ヲ言ヒ渡サレモノナ
リ

第一款 若シ会社其目的ヲ達シ得可カラサル情勢顯然タル
時

第二款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

第三款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

第四款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

第五款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

第六款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

第七款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

第八款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

第九款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

第十款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

第十一款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

第十二款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

第十三款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

第十四款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

第十五款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

第十六款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

第十七款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

第十八款 若シ社員自己ニ負荷シタル應分ノ義務ヲ纏約セサ
ル時

負ノ關係ノ三終了レテ其他ハ渾テ從來ノ權理及ニ義務ヲ以テ保存シ得可シ

第百二十八条 一社員ノ躬行ニ付テノ事故法百二十五條ニ因テリテ会社ヲ解散セサル可カラサル際其他ノ全社員一致シテ解散ヲ欲セサル一ヲ請願スル時ハ之ヲ認許シテ唯此社員ヲ分離セシムルモノナリ

第百二十九条 会社倒産ノ言ヒ渡レテ受ケレ以外他ノ事故ニ因リテ解散スル時ハ之ヲ商業簡明簿へ登記ノ為メ上稟セサル可カラス

有期会社モ亦既ニ其期限終リテ解散スル時ハ上稟セサル可カラス

高社ヨリ社員分離レ又ハ之ヲ除社スル時モ亦会社ノ解散ニ均シク商業簡明簿へ登記ノ為メ上稟セサル可カラス

右ノ事項ニ干與シタルモノ若シ前掲ノ成規ニ背反スル時ハ高法裁判所ヨリ之ニ罰金ヲ課ス

会社ノ解散社員ノ分離或ハ社員ノ除社ヲ第二十五条ノ商標ノ消滅及ニ其持主ノ変更ニ付テ社外ノ人ニ對シ法律上ニ効アル成規ニ循テ執行シタル一ヲ證明セシ以内ハ会社並事ニ付キテ社外ノ人ニ對シ抵抗スル一ヲ得可シ

第百三十条 社中ノ一員会社ヨリ分離レ又ハ除社セシ時ハ会社該員ノ分離セシ登時又ハ該員ヲ除社スル願ヲ届ケ出シ登時高社ニ存在スル資産ノ現數ニ因リテ該員ト總決案ヲ為ス可シ

社員其分離セシ又ハ除社セラレシ前已ニ会社ニ發作シテアリシ事務權理及ニ義務ニシテ延ビテ其分離又ハ除社後迄ニ及ビシモノハ該員之ニ干預セサルヲ得ス

分派セシ又ハ除社セラレシ社員ハ此留残シタル事務ヲ完結
スルニ付テ其利害渾テ会社ニ積ホ存在シタル自餘ノ社員ノ
意見ニ從テ可シ然レモ右總決案未タ完了シタル間タハ毎歳
尾ニ至リ本年中会社ニ於テ右留残事務中ニ付テ完了シタル
事務ノ決案ト其決案上ヨリ自己ニ歸ス可キ金額ヲ附与スル
トトテ督促シ又毎歳尾ニ於テ其他積ホ留残セル事務ノ現状
ニ付テ自己ニ明徴ヲ示ステ要スル權アリ

第百三十一条 分離セシ或ハ除社セラレシ社員ハ其会社資産
ニ於テ自己ニ屬スル配賦高ヲ渾テ其價直ニ應シ金貨ニ引直
シテ会社ヨリ引渡ストモ之ヲ拒ムトテ得可ラス而シテ会
社ノ貸附物品及シ其他ノ財産ニ付テ毎項其物品ニ應シテ配
賦ヲ要スル權ヲ有セス

第百三十二条 社員ト相對ノ債主第百二十六条ノ成規ニ循テ
テ自己ニ屬シタル權ヲ施行シタル時ハ自餘ノ社員集議一決
ノ上会社ヲ解散スル代リニ前條ノ成規ニ循テ負債社員ト會
社トノ間タニ於テ總決案ヲ為シ及シ該員ノ配賦高ヲ引渡シ
而シテ猶ホ会社ヲ保存シ得可シ但シ此場合ニ於テハ唯該員
債社員ノ分離シタルモノトシテ看做ス

第五節

解社決案ノ事

第百三十三条 会社倒産セシテ解散スル後ハ總社員衆議一
決ノ上又ハ條約各ニ因テ社中ノ一員又ハ他ノ人眞ニ解社決
案ヲ委任セシメザレ以内從來ノ總社員又ハ其代理ヲ以テ解
社決案人トシテ之ヲ執行セシム可シ○社中ノ一員死去セル
時ハ其法律上ノ相続人中ヨリ共全代理人ヲ定ム可シ
社員ノ言ニ立テニ因リ至當ノ事故アレハ裁判官ヨリ解社決

算人ヲ授任スルヲ得可シ此時ニ方リテ裁判官ハ社外ノ人ヲ以テ解社決算人ニ命ジ又ハ解社決算人トシテ陪列セシムルヲ得可シ

第百三十四条 總社算會議一決、上解社決算人ヲ免黜スルヲ得可シ又至當ノ事故アレハ一社算ノ上稟ニ因リテ裁判官ヨリ之ヲ免黜スルヲ得可シ

第百三十五條 解社決算人ヲ商業簡明簿へ登記スルヲ爲メニ各社算ヨリ高法裁判所へ上稟シ各自法廷ニ於テ該稟面へ其姓名ヲ手署シ又ハ公正ノ證者ヲ以テ之ヲ證ス可シ

解社決算人ノ分離セシメ又ハ其全權ヲ收回セシメ亦前掲同様ノ手續キテ以テ高法裁判所へ上稟ス可シ

右ノ定規ヲ履行セサル社算へハ高法裁判所ヨリ罰金ヲ課ス解社決算人ノ授任分離及ハ其全權ヲ收回スルヲ第二十五

条及ハ第四十六條ノ高標持テ主ノ変更及ハ總任主管ノ免黜ニ付テ法律上社外ノ人ニ對シテ効アル成規ニ循テ執行セタルヲ證明スル以内ハ会社此事ヲ社外ノ人ニ對シテ抗抵スルヲ得可シ

第百三十六條 解社決算人多数ナル時明徴ヲ以テ各自ニ事務ヲ処分ス可ク定制シテアテサル以内解社決算ニ係ル事務ハ全算合同ノ上執行シタルモノニ非レハ他人ニ對シテ法律上ノ効ナシ

第百三十七條 解社決算人ハ解社ノ残務ヲ結了シ其義務ヲ完了シ其償附ヲ討究シ及ハ其所有品ヲ賣却スルヲ以テ自ラ任ス可シ又ハ裁判内外ノ事務ニ付テ会社代理人トナリ及ハ訟争ニ方リテ和解ヲ処決スルノ權アリ

解社決算人未決ノ事務ヲ結了スルニ方リテ便否ニ因リ又新

タニ端ヲ起スモ妨ケ無シ

解社決算人不動産ヲハ公糶ニ付スルヨリ以外ハ全社員ノ議決ニ非レハ之ヲ賣却スルヲ得ス

第百三十八條 解社決算人ノ事務ヲ掌理スル一ニ付テ権限ヲ立ツルハ他人ニ對シ法律上ノ効ナシ參看三十七條

第百三十九條 解社決算人ハ旧商標即チ目下解社決算ニ方リ用ラアル商標ニ俟テ自己ノ姓名ヲ手署ス可シ

第百四十條 官撰ノ解社決算人タリハ事務ヲ所決スルニ方リテハ全社員ノ議決シタル指教ニ聽從セサル可カラス

第百四十一條 解社決算中不用ノ金貨ハ預先ニ社員中へ配分ス可シ

他日償還ス可キ会社ノ負債ト社中總決算ヲ為シタル上各社員ニ歸ス可キモノトノ供給トシテ適用ノ金貨ヲ備へ置ク可シ

第百四十二條 解社決算人ハ社中總決算ヲ為ス可シ

社中總決算ニ付テ生シタル爭訟ハ裁判官ノ審判ニ付ス可シ

第百四十三條 若シ一社員ヨリ会社へ差出シ物品会社ノ所有ト成ラアル時ハ社中總決算ニ方リ原物ヲ以テ再々該員へ還与スルヲ得可カラス但シ豫メ該員ト条約シタル償直ヲ以テ之ニ償還ス可シ

此償直ヲ欠ク時ハ其物品ヲ差出セル登時ノ実價ヲ以テ償還ス可シ

第百四十四條 会社ノ解散スルニ拘ハラヌ解社決算完結スル迄ハ從來ノ社員中契約上ノ関涉及シ該員ト社外ノ人ト契約

上ノ關係ノ為メニハ第二章及シ第三章ノ成規並章ノ定規及シ解社決算ノ本体上ヨリシテ別段抵触スルコトアラサル以内

ハヲ準用ス可シ

解散前ニ会社ヲ管轄セシ裁判所ハ解散後ト雖モ解社決算ノ
結局ニ至ル迄ハ從來ノ通りタル可シ

会社ヨリ外事ニ付キ人ヲ發遣スルハ解社決算人中ノ一員
ヲ以テ之ニ充ツルハ法律上ニ於テ妨ケ無シ

第百四十五條 解散シタル会社ノ諸帳簿及ヒ文書ハ解社決算
ノ結局ニ至リシ後社中ノ一員又ハ社外ノ人ニ託シテ之ヲ保

護シ置ク可シ若シ社員ト社外ノ人トノ中孰レヘ之ヲ託ス可
カ否ヲ決セサル時ハ商法裁判所ノ斷決ヲ要ス可シ

社員及ヒ其法律上ノ相続人ハ此帳簿及ヒ文書ヲ檢閲シ又ハ
使用スル權ヲ有ス

第六節

社員ニ係ル訴訟ノ期滿得免スル事

第百四十六條 会社ニ對シテノ要求ヨリシテ其社員ニ係ル訴

訟ハ要求ノ性質ニ因リテ短キ期滿得免ノ期限ヲ法律上ニ確
定シテ非ズ以内ハ会社ノ解散会社ヨリ社員ノ分派或ハ際社

セル後五年ヲ以テ期滿得免トス
此期滿得免ハ会社ノ解散会社ヨリ社員ノ分離及ヒ除社セシ

トシテ商業簿記簿ニ登記セル日ヨリ起算ス可シ
前掲ニ登記セル後始テ拂ヒ時期トナル債附ノ期滿得免ハ即

チ其時期ヨリ起算ス可シ
第百四十七條 未タ配分ヲサレタル会社ノ資産現存シテアル時

ハ債主此ニ就テ討究ヲ要求スル以内此五年ノ期限得免ヲ以
テ債主ニ對シテ抗抵スルコトヲ得ス

第百四十八條 猶連續シテアル会社及ヒ其社員ニ係ル契約上
ノ事件ニ付テハ分離セシ又ハ除社セラレシ社員ノ為メニ此

期滿得免ハ中止スルヲ無シ

會社ノ解散ニ方リ猶ホ該社ニ管係シテアリシ一社員ノ為メ
ニモ他ノ一社員ヘ係ル契約上ノ事件ニ付テ此期滿得免ハ中
止スルヲ得ル但シ解社決算人ヘ係ル契約上ノ事件ニ付テハ
中止ス可シ

第百四十九條 此期滿得免ハ知者後見ノアル人或ハ法律上知
者ノ權ヲ与ヘテアル法律上ノ人ニ對シテモ亦中止スルヲ無
シ但シ右ノ者ヨリ後日ニ至リ此期滿得免ノ破毀ヲ請願スル
ト得ストモ後見人又ハ監察人ヘ對シ訴訟ヲ為スノ特權
アリ

獨逸國普通商法卷之二

第二章

委任会社ノ事

第一節

通常委任会社ノ事

第百五十條 委任会社ハ會社ノ負債ニ對シテ唯放銀ノミヲ以テ
責ニ任スル一員又ハ數員社放銀ト該負債ニ對シテ自己ノ全產
ヲ以テ責ニ任ズル一員又ハ數員社責任ト結社シテ共通ノ商標
ノ下ニ商業ヲ經營スルモノナリ
若シ責任社員多數アル時ハ此為ノ委任会社ヲ共同会社トシ
テ看做ス

會社ノ條約各ハ公正ノ証書ヲ以テ証スルヲ要セス

第百五十一條 委任会社ヲ設立スルトシテ商業簡明簿ヘ登記シ

此
職
省

ル為ノニ全社負ヨリ其地方商法裁判所へ上稟ス可シ
上稟昏ニ在ノ條款ヲ開列ス可シ

第一款 右責任社負ノ姓名種族及ヒ住所

第二款 放銀社負タルノ表章ヲ附記シテ各放銀社負ノ姓

名種族及ヒ住所

第三款 会社ノ商標及ヒ会社設置ノ地方

第四款 各放銀社負ノ放銀額數

右各面ヲ各社負商法裁判ニ於テ各自ラ其姓名ヲ手署シ或ハ
公正ノ証昏ヲ以テ証シ而シテ後該署ニ於テ昏中ノ全文ヲ商
業簡明簿へ登記ス可シ○委任会社ノ廣告ハ放銀社負ノ姓名
種族住所及ヒ放銀額數ノ課目ヲ除キ其餘ハ渾テ新聞紙三第十
條ヲ參看ニ附列ス可シ

第百五十二條 委任会社ノ各支店ハ商業簡明簿ニ登記スル為

メニ其店舗所在ノ地方商法裁判所へ上稟ス可シ

此上稟昏ニハ第百五十一條ノ第一款ヨリ第四款迄ニ掲載シ
タル課目ヲ開列シ而シテ右委任社負ハ商法裁判所ニ於テ各
自ラ其姓名ヲ手署シ又ハ公正ノ証昏ヲ以テ之ヲ証ス可シ

第百五十三條 会社ノ代理タル可キ各責任社負ハ本社及ヒ支

店所在地方ノ商法裁判所ニ於テ各自ラ其姓名ト会社ノ商標
トヲ併セテ手署シ又ハ公正ノ証昏ヲ以テ証ス可シ

第百五十四條 若シ責任社負第百五十一條ヨリ第百五十三條

迄ノ定規ヲ遵奉セザル時ハ商法裁判所ヨリ之ニ罰金ヲ科ス

第百五十五條 既ニ成立シテアル委任会社其商標ヲ變更シ又

ハ其店舗ヲ轉移スル時ハ此事ヲ商業簡明簿へ登記ノ為メニ
全社負ヨリ第百五十一條ノ法式ニ循テ商法裁判所へ上稟ス
可シ若シ此法式ヲ遵奉セザル時ハ裁判所ヨリ責任社負へ罰

金ヲ科ス

此支ヲ新聞紙ニ付刊シテ廣告スルニ當リ放銀社負ノ為ノニ
第百五十一條ノ成規ヲ準用ス可シ

此事ニ付テ社外ノ人ニ對シ法律上ノ効アルト否ラザルトハ
第百二十五條ノ成規ニ循フ可シ

第百五十六條 既ニ成立シテアル委任会社へ若シ新放銀社負
加入スル時ハ之ヲ商業簡明簿へ登録シ之ヲ廣告スル為ノニ

第百五十一條ノ成規ニ循テ全社負ヨリ上票ス可シ

第百五十七條 各社負中契約上ヨリ生スル関涉ハ主トシテ社
中ノ條約ニ循フ可シ而シテ條約ノ欠ケタル以内及ヒ次ノ條

々第百五十八條ヨリ第ヲ除ク以外ハ共同会社ノ各社負中契
約上ヨリ生スル関涉ノ為ニ制定シタル成規ヲ準用ス可シ
第百五十八條 会社ノ事務ハ責任社負ノ一負乃至數負ニ委シ

テ執行セシム可シ
放銀社負ハ社務ヲ執行スル権理及ヒ義務ヲ有セズ第百六十
七條ノ第

三項ヲ參
看ス可シ
放銀社負ハ責任社員ノ社務ヲ執行スルニ對シテ異議ヲ容
ル、ヲ得可カラズ第百二十九條ヨリ第百二十九條

第百二十九條 放銀社負ハ自餘ノ社負ノ承諾ヲ得スシテ会社
ニテ經營シテアル商業ノ支配ヲ自己ノ為メ又ハ他人ノ為メ

經營シ或ハ公然他ノ同様ノ会社へ加入シ其社負ニ列スル
ヲ得ス

第百六十條 放銀社負ハ毎歲ノ決算表ノ繕本ヲ示スニテ要請
シ而シテ之ヲ会社ノ帳簿及ヒ文卷ニ就テ點較シテ其正否ヲ

検査スルノ權アリ

放銀社負ハ第五條ニ於テ掲載シタル共同会社ノ社負ノ如キ

大ナル権限ヲ得ズ

然シ放銀社負ノ上訴ニ因リ己ムヲ得ザル事故アレバ商法裁判所ヨリ何時^ハテ^ハ氏会社ハ決算表或ハ明細帳ヲ該算ヘ示シ并ニ諸帖簿及ヒ文唇ヲ該署ヘ差出サシムルヲ命シ得可シ
第百六十一條 放銀社負ノ為メニモ第百六條ヨリ第百八條迄ニ掲載シタル放銀ニ息銀ヲ付シ及ヒ損益ヲ毎年計算シ并ニ息銀及ヒ利益ヲ配賦額ヘ増加スルヲ付テノ定規ヲ準用ス可シ

但シ放銀社負ハ其既ニ会社ヘ拂ヒ入レタル或ハ猶ホ引渡ザル放銀ノ額ニ至ル迄損失ニ付テノ割前ヲ受ク可シ
放銀社負ハ一旦領収シタル息銀及ヒ利益ヲ後來ノ損失ノ為メ再ヒ度シ入ル可キ義務ヲ負ハス但シ放銀ノ原額損失ノ為メ減少シテアル以内ハ毎年ノ利益ヲ以テ損失ノ償還ニ充ツ

可シ

第百六十二條 利益及ヒ損失分賦ノ額數ニ付テ別段規則マラザル時ハ裁判官ノ意見ニ從ヒ若シ己ムヲ得ザル場合ニ於テハ該事ニ通曉セル者ノ陪列ニ因リテ定ム可シ

第百六十三條 委任会社ノ社外ノ人トノ関涉ハ其舖店設置ノ地方商法裁判ニ就テ該社ヲ設立スルヲ商業簡明簿ヘ登記畢リシ日又ハ唯社務ヲ着手シタル日ヨリ法律上ノ効アリトス

右登記畢リシ日ヨリ後レタル日ヲ以テ会社ト社外ノ人ト管涉ノ初ト定メタル期限ハ社外ノ人ニ對シ法律上ノ効ナシ
右登記ノ前ニ会社其事務ヲ着手シタル際放銀社負ハ会社ニ對シテ自己ノ割前領域アルヲ社外ノ人ヘ証シザル以内ハ右登記スル迄ニ生スル会社ノ義務ニ付テ責任負ト等シク社

外ノ人ニ對シ其責ニ任ス可シ

第百六十四條 委任会社ハ其商標ヲ以テ権理ヲ有シ及ヒ契約ヲ結了シ又不動産ヲ所有シ及ヒ之ニ支配スルノ權ヲ有シ並ニ訴訟ニ際シ原告及ヒ被告トナルコトヲ得可シ

会社ハ其店舗所在ノ地方裁判所ノ管轄タル可シ
第百六十五條 放銀社負ハ会社ノ義務ニ對シ唯其放銀ヲ以テ責ニ任シ而シテ此放銀未ダ会社ハ拂ヒ濟ズニアル時ハ其條約面ノ額數ヲ以テ應ズ可シ

放銀社員ノ既納放銀ハ会社持統ノ間其全額ト一部トヲ論ゼズ之ヲ還与スルコトヲ得ズ又其未濟放銀ヲ免ズルヲ得可カラズ

会社ヨリ放銀社員ニ利息銀ヲ支給スルコトハ唯其放銀ノ減少セザル以内ハ之ヲ為スコトヲ得可シ

放銀社員ハ損失ノ為メ減額シタル放銀ヲ償了スル迄ハ利息銀及ヒ利益ヲ受取ルコトヲ得可カラズ

放銀社員會社ヨリ右ノ定規ニ及シタル拂ヒヲ受取ル時ハ該社ノ義務ニ對シテ其責ニ任ス可シ

但シ放銀社員ノ確信ニ可ク作リタル決算表上ニ於テ領収シタル明徴アル利息銀及ヒ利益ヲ戻シタル、義務アラズ

第百六十六條 何人ヲ論ゼス既ニ成立シテアル会社ハ放銀社員ト為ツテ加入スルモノハ該社ノ商標ノ變更スルト否トニ拘ハラズ其加入前該社ニ生シテアリシ諸般ノ義務ニ對シテハ前條ノ定規ニ循フテ其責ニ任ス可シ

右ニ及シタル條約ハ社外ノ人ニ對シ法律上ノ効無シトス
第百六十七條 責任社員ハ委任会社ノ権理及ヒ義務ヲ自己ニ擔當シ並ニ裁判所ニ對シ該社ノ代理タルモノナリ

会社ヨリ公署ノ召ニ應シ及ヒ其他ノ事ニ付テ他一人ヲ差遣
スルニ方リ会社ヲ代理ス可キ権ヲ有シタル社中ノ一員ニテ
此事ヲ弁理セバ多負ヲ要セズ

放銀社員会社ノ為メニ事務ヲ約スルニ方リ其身唯総任委
負又ハ委員ト為テ之ヲ取扱フ一ヲ明徴ヲ以テ告ロセザル時
此事ニ付テハ責任社員ト等シキ義務ヲ負フ可シ

第百六十八條 放銀社員ノ姓名ヲバ会社ノ商標ニ加フルヲ得
可カラズ之ニ反シタル場合ニ於テハ該員会社ノ債主ニ對シ
テ公認ノ社員ニ等シク其責ニ任スヘシ（旧ト公認ノ社員ニ姓
名會社ノ商標中ニアルハ格別ナリトス（第二十四條ノ例外定
規ヲ参考ス可シ）

第百六十九條 第百十九條ヨリ第百二十二條迄ノ定規ハ委任
会社ニモ亦準用ス可シ

第百七十條 假令放銀社員死去シ又ハ法律上ヨリ治産ヲ禁ゼ
ラレシ時ト虽モ会社此為ノ解散スル一ヲ須ヒズ

右ノ外ハ渾テ第百二十三條ヨリ第百二十五條迄ノ共同会社
ノ為メニ制定シタル成規ヲ委任会社ニモ亦準用ス可シ

第百七十一條 若シ委任会社解散セシ時或ハ放銀社員其放銀
ノ金額又ハ一部ヲ以テ該社ヨリ分離セシ時ハ此事ヲ商業簡
明簿ニ登記ス可シ

前項ノ事ヲ廣告スルニ方リ放銀社員及ヒ其放銀額ヲバ掲載
スルニ及ハズ

第百二十九條ノ定規ヲ此條ニモ亦準用ス可シ
第百七十二條 社中総決算解散決算及ヒ社員ニ係ル訴訟ノ期
満得免ニ付テ共同会社ノ為メ制定シタル定規ハ委任会社ノ
社員ノ為メニモ亦準用ス可シ

第百二十二節

株券發行委任会社ノ事

第七十三條 放銀社負ノ放銀ヲ全株券及ヒ分割株券ト交換スルヲ得可シ

全株券及ヒ分割株券ハ記名株券タル可シ○一株券ノ金額ハ(若シ各州ノ法律上ニ於テ其地方ニ適切ナル例規ニ有レバ)此等ノ定額允許セザル以内ハ少クモ五十ヘルフィンストツレルルル^ルフインストツレ^ルハ九^ルヲ以テ則トナス可シ^{此定額千八百七}ノ^{我金七拾五錢}布^レ令^レ以前ハ二百ヘルフィンストツ^ル○無記名又ハ法律上ニ定メタル金負ヨリ減額セシ全株券及ヒ分割株券ハ其價無キモノトス

若シ此ノ如キ金額券及ヒ分割株券ヲ發行シタルモノハ其持主ノ為メ此ヨリ生シタル損害ニ對シ親自ラ責ニ任ス可シ
前項ノ定規ヲプロミツセ^{株券ヲ渡ス可及ヒインテリムスシ}

ヤイン^{株券ヲ渡ス逆ノ同}株券^{渡シ置ク証}ニ元亦準用ス可シ

第七十四條 株券發行委任会社ハ其興業ノ目的商社ノ内ニ屬セサルモノト虽モ商社トシテ看做ス

会社ヲ設立スル^ト及ヒ條約^各ノ條款ハ裁判所又ハ録事ノ証^各ヲ以テ徵スル^トヲ要ス○株券ヲ請求セントセバ公正^各ノ面ヲ以テ徵スル^トヲ要ス

第七十五條 会社^{條約}各^ハ花^ノ條款ヲ掲載スヘシ

第一款 各責任社員ノ姓名種族及ヒ住所

第二款 会社ノ商標及ヒ会社設置ノ地方

第三款 興業ノ名目

第四款 興業ヲ竣ヘル期限ヲ豫定シ得キ場合ニ於テハ

即チ其期限

第五款 全株券及ヒ分割株券ノ數及ヒ金額

第六款

放銀社負ノ内ヨリ其任撰ラ以テ三人ノ監督人ヲ置ク約束此監督人ノ数旧時ハ二員ヲ置ク

第七款

放銀社負ノ總会ヲ開ク方法

第八款

会社ヨリ発行ス可キ廣告及ヒ之ヲ附刊スル新聞紙ニ付テノ方法

第七十六條

会社ノ條約各ハ会社設立ノ地方商法裁判所ニ就テ商業簡明簿ニ登記シ並ニ該各ノ抜各ヲ新聞紙ニ附シ廣告ス可シ

抜書中ニハ九ノ條款ヲ掲載ス可シ

第一款 會社條約ノ年月日

第二款 各責任社負ノ姓名種族及ヒ住所

第三款 会社ノ商標及ヒ会社設置ノ地方

第四款 全株券及ヒ分割株券ノ数及ヒ金額

第五款

会社ヨリ発行ス可キ廣告並ニ之ヲ附刊スル新聞紙ニ付テノ方法

会社ノ條約各ニ責任社負中ノ一員又ハ數員会社ヨリ分離スル氏之ニ因テ解社セザルヲ載シアラバ即チ此事ヲモ廣告ス可シ

第七十七條

商業簡明簿ニ登記スルヲ付テノ上稟各ト共ニ左款ノ証各ヲ附上ス可シ

第一款

放銀社負ノ放銀共計ニ其各負ノ名署ヲ以テ徴シテアルノ証各

第二款

放銀社負ヨリ差出ス可キ放銀額ノ内少クハ四分ノ一該負ヨリ会社ニ拂ヒ入レテアルノ証各

第三款

條約各ニ循ヒ放銀社負總會ニ於テ監督人ヲ任撰シテアルノ証各第七十五條ノ第六款ヲ參看ス可シ

上票各ヲハ責任社負ヨリ商法裁判所ニ於テ各自ニ姓名ヲ手
署シ或ハ公正ノ証人ヲ以テ之ヲ証ス可シ○右上票各ニ附屬
スル各キ物ハ或ハ原存或ハ録更ノ寫ヲ裁判所ニ留置ク可シ
第百七十八條 商業簡明簿一登記畢ラザル以前ハ会社トシテ
看做^ス可カラズ○又右登記畢ラザル以前發行シタル全株券
又ハ分割株券ヲ發行シタルモノハ其持主ノ為ノ此事ヨリ生
タル損害ニ對シ獨リ親自ラ責ニ任ス可シ

若シ右^第登記畢ラザル以前会社ノ名ヲ以テ更務ヲ所分シタル
時ハ之ヲ所分シタルモノ獨リ親自ラ其責ニ任ス可シ
第百七十九條 第百五十二條及ヒ第百五十三條ノ例規ヲ株券
發行委任会社ニモ亦準用ス可シ但シ上票各ニハ第百七十六
條ノ第一款ヨリ第二款迄ノ課目ヲ列記ス可シ○商法裁判所
ニ於テハ其職掌上ヨリ右之定規ヲ遵奉セザル責任社負ハ罰

金ヲ料ス

第百八十條 責任社負現貨ニ非ザル物ヲ以テ放銀ニ充ツル
又ハ自己ノ放銀ニ特例ノ利益ヲ要スル時ハ放銀社負總會ニ
於テ此物價ヲ計算シ及ヒ之ニ承諾ヲ与フ可キカ否ヲ詮議シ
然後テ次會ニ於テ決議ハ上承諾ヲ与フ可シ
此決議ハ会場ニ列席シタル放銀社負及ヒ其代理人ノ現貨中
ニ就テ多數ニ隨フ可シ但シ此數ハ少クハ總放銀社負ノ四分
一ヲ要ス而シテ又其株券ノ金額ヲ合計シテ放銀社負ノ總放
銀ノ四分ノ一ニ當ルヲ要ス○前項ノ放銀ヲナシ又ハ特例ノ
利益ヲ要シタル社負ハ此會議ニ於テ決議ハ權ナシトス
此定規ノ條款ニ及シテ定メタル條約ハ法律上ノ効ナキモノ
ナリ
第百八十一條 責任社負ヨリ拂ヒ入タル及ヒ該負ニ特例ノ利

益ヲ約諾シタル放銀ノ為メニ株券授与スルヲ得可シラズ此
放銀ハ該會社ニ於テ其責任ヲ負タル權理上ノ關係ヲ有シ
テアル以内ハ他ニ賣与スルヲ得可カラズ

第百八十二條 全株券及ヒ分割株券ハ分ツコトヲ得ズ

株券ハ其所有主ノ姓名住所種類トテ併セテ詳細ニ會社ノ株
券簿ニ登錄ス可シ

株券ハ會社ノ條約旨ニ別段ノ規則アラザル以内ハ他ノ社負
ノ承諾ヲ得ズシテ外人ニ譲リ渡スコトヲ得可カラズ

株券ハ裡旨ヲ以テ譲リ渡スコトヲ得可シ
裏旨規則ノ為メニ獨逸國普通為換法ノ第十一條ヨリ第十三
條迄ノ定規ヲ準用ス可シ〔該法ノ條款即チ下ニ掲載スル如シ

○第十一條裏旨ノ文ハ為換券又ハ其副本ノ後面又ハ為換券
或ハ其副券ニ貼附シタル紙面ニ記載ス可シ第十二條裏旨ノ

文ハ略シテ唯讓渡人ノ姓名又ハ商標ヲ為換券又ハ其副券ノ
後面又ハ為換券或ハ其副券ニ貼附シタル紙面ニ記載スル

亦妨ケナシトス〔此旨式ヲ空頭裏旨ト云〕第十三條為換券ノ讓
受人ハ空頭裏旨ノ上邊ニ就テ自ラ裏旨ノ文ヲ填補ス但シ此

填文ヲ為サズ凡^補獨又裏旨シテ他ニ譲リ渡ス權アリトス

第百八十三條 株券所有ノ權ヲ外人ニ譲リ渡ス時ハ其株券及
其讓リ渡シノ信憑ヲ會社ニ差出シ此事ヲ通知ス可シ而シ

テ會社ニ於テハ此事ヲ株券簿ニ登錄ス可シ
會社ニテハ株券簿ニ株券ノ所有主トシテ登錄シタル者ノ

ミヲ以テ唯株券ノ所有主トシテ看做ス可シ
會社ニテハ讓受人ノ真否如何ヲ探索スルノ權アリ然シ他日

該人ニ付テ是故生ズル其責ニ任スルノ義務ナシ
第百八十四條 株券ノ金額皆濟セザル以内ハ株券ヲ請求シタ

ル者其残額ヲ会社へ併ヒ入ル、トテ以テ義務トス可シ会社ハ該人ニ此義務ヲ解免セシムルヲ得可カラズ

第百八十五條 責任社員ハ監督人及ヒ放銀社員ハ遅クトモ毎歳ノ前六ヶ月内ニ於テ前年ノ決算表ヲ交付スルヲ以テ義務ト為ス可シ

第百八十六條 会社ノ條約又ハ前條ノ定規ニ循テ社務ノ施設決算表ノ展覧及ヒ検査利益分賦ノ定則会社ノ解散及ヒ廣告又ハ責任社員ニ分離ヲ要スルニ付テ責任社員ニ對スル放銀社員ノ権理ヲハ總會ニ於テ放銀社員ノ全負ヨリ施行スベシ

總會ニ於テ決議シタル事ハ会社ノ條約各ニ別段ノ規則ヲ定テアラザル以内ハ監督人之ヲ施行スベシ

第百八十七條 放銀社員總會ヲ責任社員又ハ監督人ヨリ召集スルコトヲ得可シ但シ会社ノ條約ニ此權ヲ該負等ノ外人ニ附与ス可カラズト定テアル時ノミニ限ル可シ

第百八十八條 放銀社員總會ハ会社ノ條約各ニ於テ明確ニ定テアル場合ノ外会社ノ為メ必需ト認ムル時ニ於テハ之ヲ召集スルコトヲ得可シ

又放銀社員總會ヲ放銀社員ノ一員又ハ其株券ノ放銀ヲ合シテ總會放銀ノ十分一ニ當ル數負ヨリ其數集ス可キ趣意及ヒ事故ヲ記シテ名署シタル回状ヲ以テ要スル時ハ之ヲ召集スルコトヲ得可シ○会社ノ條約各ニ總會ヲ要スル權ヲ總會放銀ノ幾分ニ歸スト定テアル時前項ニ比スレバ多寡ノ割合アル氏ハ之ヲ遵守ス可シ

第百八十九條 總會ヲ召集スルコトハ会社ノ條約各ニ載定シタル方法ニ循テ奉行ス可シ

總會ヲ開クノ趣意ハ其召集ノ時々毎トニ通知セザル可カラズ○此方法ニ循テ通知セザル議事ハ決定スルコトヲ得可カラ

第百九十條 總會ヲ召集スルコトハ会社ノ條約各ニ載定シタル方法ニ循テ奉行ス可シ

總會ヲ開クノ趣意ハ其召集ノ時々毎トニ通知セザル可カラズ○此方法ニ循テ通知セザル議事ハ決定スルコトヲ得可カラ

第百九十一條 總會ヲ召集スルコトハ会社ノ條約各ニ載定シタル方法ニ循テ奉行ス可シ

總會ヲ開クノ趣意ハ其召集ノ時々毎トニ通知セザル可カラズ○此方法ニ循テ通知セザル議事ハ決定スルコトヲ得可カラ

第百九十二條 總會ヲ召集スルコトハ会社ノ條約各ニ載定シタル方法ニ循テ奉行ス可シ

總會ヲ開クノ趣意ハ其召集ノ時々毎トニ通知セザル可カラズ○此方法ニ循テ通知セザル議事ハ決定スルコトヲ得可カラ

第百九十三條 總會ヲ召集スルコトハ会社ノ條約各ニ載定シタル方法ニ循テ奉行ス可シ

總會ヲ開クノ趣意ハ其召集ノ時々毎トニ通知セザル可カラズ○此方法ニ循テ通知セザル議事ハ決定スルコトヲ得可カラ

ス但シ總會ノ現場ニ於テ發言ニ因テ閑ク不時總會ヲ召集スルヲ付テハ此限ニ非ス

決議ニ附セズシテ唯意見ヲ陳述シ或ハ議論ヲ可否スル迄ノ會合ハ其趣意ヲ通知スルヲ要セズ

第百九十條 放銀社負總會ノ決議ニ付テ會社ノ條約ニ別段ノ規則アラザル以内ハ投票ノ多數ヲ以テ定ム可シ而シテ一株

券毎トニ一投票ノ權ヲ其所有主ニ附与ス
第百九十一條 監督人ノ初任ハ一年以内再任ハ五年以内タル可シ

右ノ任期ヨリ長キ在任ハ法律上ノ効無シトス

第百九十二條 初任監督人ノ職掌ニ付テノ給料ヲバ一年ヲ經過ノ後放銀社負總會ノ決議ニ因リテ授与スルヲ得ヘシ

給料ヲ右ノ期限ヨリ早ク或ハ右ノ方法ニ反シテ授与スル規

則ハ法律上ノ効ナシトス

第百九十三條 監督人ハ其管掌スル各部内ノ社務ヲ施設スル

トヲ監督シ及ヒ會社ノ事業ノ運ビヲ與知スルノ權アリ並ニ不時ニ會社ノ帳簿及ヒ諸文書ヲ展閱シ又ハ社庫ノ現状ヲ検査スルヲ得ヘシ

又監督人ハ會社ノ歲計決算表及ヒ利益分賦案ヲ検査シ之ヲ

毎年總會ニ於テ報知ス可シ
第百九十四條 監督人ハ總會ニ於テ決議シタル責任社負ニ係ル訴訟ヲ擔當スルノ權アリ

各放銀社負ハ自費ヲ以テ此訴訟ニインテルフユニント原告

外人ノ訴トナルノ權アリ
監督人其責任内ノ事ニ付テハ總會ノ決議ヲ待タズ自己責

任社負ニ係リ訴訟ヲ為シ得可シ

第百九十五條 若シ放銀社負其一般ノ管係ノ為メニ各自共同
シテ責任社負又ハ監督人ニ對シ訴訟ヲ為サント欲スル時ハ
總會ニ於テ任撰セシ委員ヲ以テ代理ニ充ツ可シ
總會ニ於テ此委員ヲ任撰スルニ付テ或ル事故ノ為メニ因テ
障礙セラル、時ハ其申シ立テヲ以テ商法裁判所ヨリ之ヲ任
スルヲ得可シ
若放銀社負ハ訴訟ニ際シ自費ヲ以テインテルフエニントト
ナルヲ得可シ
第百九十六條 責任社負ハ会社ノ推理及ヒ義務ヲ自分ニ擔當
シ並ヒニ裁判所ニ對シ該社ノ代理タル權アリ
官署ノ召ニ應シ及ヒ外事ニ付テ会社ヨリ人ヲ派遣スルニ方
リ此事ヲ会社ノ代理タル可キ權ヲ有セシ社負ノ一名ニテ弁
理セバ又多負ヲ要セズ

第百六十七條 放銀社負会社ノ為メニ事務ヲ決定スルヲ
付テノ定規ハ株券発行委任会社ノ為メニ準用ス可カラス
第百九十七條 会社ノ連続スル間タハ放銀社負ハ放銀ヲ払ヒ
戻スヲ得可カラズ
定額以内ノ利益ハ前以テ契約アラズニ放銀社負ハ拂ヒ渡ス
ヲ得而シテ会社ノ條約ニ豫備金ヲ若干貯蓄スルヲ判定
シテアル時ハ即チ毎歳ノ決算表ニ因於シテ該金ヲ引去リ然
ル後尚ホ剩餘アル時ニ唯此剩金ヲ該負ハ分賦スルヲ得
可シ
放銀社負若シ会社ヨリ此規定ニ反シタル支給ヲ領収セシ時
ハ会社ノ義務ニ對シ親自ラ責ニ任ス可シ但シ確憑ニ據リテ
領収シタル分賦ヲ戻シ入ル、ノ義務ヲ負荷スルヲ無シ
第百九十八條 會社ノ條約ヲ變更スル時ハ録事及ヒ裁判所ノ

大
裁
省

證各ヲ以テ証ス可シ

變更シタル條約ハ最初ノ條約ノ如ク商業簡明簿ハ登記シ及
ヒ其抜キ各ヲ廣告セザル可カラズ第百七十六條及ヒ第百
七十九條ヲ參看ス可
シ

若シ變更シタル條約ヲ会社所在ノ地方商法裁判所就テ商
業簡明簿ニ登録セザル以前ハ法律上ノ効ナシトス

第百九十九條 責任社員ノ一名至至乃數名ヲ臨時換談ノ上分離
スル時ハ会社ノ解散トシテ看做ス但シ此換談ニ付テハ放銀
社員總會ノ承諾ヲ要ス

但シ会社ノ條約ハ其變更シタル條約第百九十八條ヲニ責
任社員ノ一名乃至數名分離スルハ猶ホ責任社員ノ内ニテ少
ナク氏一名会社ニ存在スル以内ハ会社ノ解散ヲ為サミル
ヲ定メ得可シ○商業簡明簿ニ登記スルニ付テハ第百二

十九條ノ定規ヲ準用ス可シ

第百條 若シ放銀社員ノ中ニテ死去シ或ハ倒産ヲ言ヒ渡サ
レ或ハ法律上洛産ヲ禁ゼラレシモノアルハ其為メ解散スル
トヲ要セス○第百二十六條ノ成規ハ放銀社員ニ係ル相對ノ
債主ノ為メニ準用スルトヲ得ズ其他ハ第百二十三條ヨリ第
百二十八條迄ノ定規ヲ株券發行委任会社ニモ亦準用スルコ
トヲ得可シ

第百一條 会社ノ解散倒産ノ言ヒ渡シニ因リテ為スニアラ
ザル以内ハ之ヲ商業簡明簿ハ登録ス可シ

会社其營業期限ノ經過ニ届リ解散スル時モ亦商業簡明簿ハ
登録ス可シ

第百二條 會社倒産ノ言ヒ渡シアリタル場合ヲ除キ其他ノ
解散ニ付テ之ヲ商業簡明簿ハ登録シタル日ヨリ起算シテ

一箇年ヲ經過スル以前ハ社員中ニテ會社ノ資産ヲ分賦スル
了結シ得可カラズ

會社ノ商業帳簿ニ明徴アル又ハ他ノ方法ニ因テ詳悉シテア
ル債主ヲバ各個ニ告知シテ之ヲ召集ス可シ若シ該人之ニ應
シテ集會セザル時ハ其債金高ヲ裁判所ニ託ス可シ
未ク纏結セザル條約ニ付テノ物件及ビ紛議ヲ生シテアル債
金モ亦會社資産ノ分賦終了セズ又ハ債主ニ對シ適當ノ保證
ヲ立テザル以内ハ之ヲ裁判所ニ批ス可シ

第二百三條 放銀社員ハ其放銀ノ幾分ヲ還入スルハ會社ノ
條約ヲ變更スルニ際シテノミ之ヲ為ス可シ
會社解散ノ場合ニ於テ會社ノ資産ヲ分賦スル為メニ判定シ
タル成規第二百一及二條ヲ參看ス可シヲ奉行シタル以内ノミハ該金ヲ
還入スルヲ得可シ

第二百四條 監督人タルモノハ其取扱ヒタル私ヒノ償還ニ對
シテハ自己ノ意見ヲ以テスルト人ニ同意スルトヲ同ハズ左
ノ場合ニ於テハ責任社員ト等シク其責ニ任ズ可シ

第一款 放銀社員ハ放銀ヲ拂ヒ戻シ時

第二款 株券面ニ比準シテ不適當ナル息銀及ヒ分賦ヲ拂

ヒ出セシ時

第三款 定規第二百二及三條ヲ參看ス可シニ及シタル會社ノ資産
ノ分賦及ヒ放銀社員ノ放銀ヨリ幾分ノ私ヒ戻シ
ヲ為シタル時

第二百五條 解社決議ハ會社ノ條約ニ別段定規アラザル以内
ハ責任社員ト放銀社員總會ニ於テ任撰シタル一員乃至數員
ト委任シテ施行ス可シ

第二百六條 責任社員及ヒ監督人ヲバ左ノ場合ニ於テハ三箇

可シ

第二〇七條 ①全株券及ヒ分割株券若シ記名ニテアル時ハ一券
 ノ金額少クハ五十「ヘルアインスタール」ヲ以テ則トシ若
 シ無記名ニテアル時ハ一券ノ金額少クハ一百「ヘルアイ
 ンスタール」ヲ以テ則トス可シ 〇保倫会社ノ全株券及ヒ分割
 株券ハ素ヨリ記名ニシテ每一券ノ金額少クハ亦一百「ヘル
 アインスタール」ヲ以テ則トス可シ
 此成規ヨリ減少シタル額ヲ以テ則トシタル全株券及ヒ分
 割株券ハ其價ナキモノトス 〇此クノ如キ全株券及ヒ分割株
 券ヲ發出シタル者ハ渾テ此ノ為メ釀生シタル損害ヲ其所有
 主ニ對シ自己ニ擔當ス可シ
 一旦定メタル全株券及ヒ分割株券ノ金額ヲハ会社連続ノ間
 ガハ更ニ増減スルヲ得可カラズ

前數項ノ成規ヲ「プロマツス」及ヒ「インテリハス」シヤイン「レ」ノ為
 メニ準用スルヲ得可シ

第二百八條 株券会社ハ仮令其事業ノ本体商社ノ内ニ属ス可
 カラズトモ之ヲ商社トシテ看做ス

会社ヲ設立スル「及ヒ」会社ノ條約各ノ條款ニ付テハ裁判所
 及ヒ録吏ノ証各ヲ以テ証ス可シ

株券ヲ請求スルニハ公正ノ唇面ヲ要ス
 第二百九條 会社ノ條約ニハ特トニ凡ノ條款ヲ確定セザル可
 カラズ

第一款 會社ノ商標及ヒ会社設置ノ地名

第二款 事業ノ表章
 第三款 事業ノ年限但シ之ニ期限ヲ立テ得可キ場合ニノ

ニ限ル可シ

第四款

資本金額及ヒ各個全株券又ハ分割株券ノ總高
株券ノ性質（即チ記名或ハ無記名）及ヒ株券二種
アル時ハ則チ其毎種ノ總數並ヒニ該券ノ現時流
通高

第五款

株主ノ全負ヨリ少ナクハ三人ヲ撰舉シテ監督人
ヲ任スル事

第六款

決算表ヲ製シ息銀ヲ算定シ及ヒ該銀ヲ払ヒ渡ス
定則并ニ該表ヲ檢閲スル方法

第七款

支配人一員ヲ任舉シ或ハ數員ヲ置ク方法及ヒ該
員身元ノ檢査及ヒ会社ノ役負ニ付テノ規則

第八款

株主ヲ召集スル規則
株主ノ詮議ノ權ヲ定ムル方法及ヒ該權ヲ施行スル
規則

規則

第九款

召集ニ應ニテ登場シタル株主ノ現貨中ニ付テ通
常投票ノ多數或ヒハ幾許投票ノ多數或ヒハ他ノ
適切ナル方法ニ因リテ決議スルノ要旨

第十款

会社ヨリ発行ス可キ廣告及ヒ該廣告ヲ附刊スル
新聞紙ニ付テノ規則

第十一款

第二百九條 ① 故銀ノ請求了リタル後ニ該株主間ニ於テ会社ノ
條約未ダ決定セズ及ヒ該條約ニ尤ノ須要件ヲ完結シタル明
文ナキ以内ハ株主總會ヲ催シ各自ヨリ差出シタル株券請求
各ニ因於シテ故銀ノ請求資本金ノ額ニ充ツル方法及ヒ毎株券
ニ付テ少ナクハ十分一ノ現金（但シ保險会社ニテハ少ナクハ
十分一ノ現金）ヲ收入スルヲ決議スル可シ

此決議案ハ裁判所及ヒ録事ノ證各ヲ以テ証ス可シ

第十二款

第二百九條 ② 若シ株主ヨリ正金ニ非ザル他物ヲ以テ故銀ニ比

價シテ差シ出シ又ハ財本ヲ放置シタル或ル物件及ヒ其他ノ
西イ物品ヲ目今設置スル会社へ差シ出ス時ハ会社ノ條約各
中ニ該物品ノ実價及ヒ之ニ換スル株券ノ金額并ニ該物品
ノ市價ヲ載定ス可シ○各株主ノ為メ契約シタル特別ノ利益
分賦モ亦同ク会社ノ條約各中ニ載定ス可シ
放銀ノ請求了リシ後キ前項ノ場合ニ方リテハ(総株主ノ間)
ニ会社ノ條約未タ決定セザル以内ハ株主ノ總會ニ於テ決議
ノ上承諾ヲ得ザル可カラズ
右條約ヲ承諾スル多数ハ十分ノ以上ニ付テ四分ノ一
ヲ要ス而シテ該十分ノ金額十分ノ以上全放銀ノ四分ノ一ニ當
ルヲ要ス○關係アル放銀又ハ特別ノ利益分賦ヲ要シタル
社員ハ決議ニ方リテ絶ヘテ該決議ノ權ヲ有セズ
此決議案ハ裁判所又ハ録事ノ証各ヲ以テ証ス可シ

第二百九條 ①總會ヲ徵集スルハ ②標第 二百九條及ヒ ③標第
二百九條ノ場合ニ於テハ總會ヲ徵集スル会社ノ條約ノ定規
ニ循テ舉行ス可シ

第二百十條 会社ノ條約ハ會社設置ノ地方商法裁判所ニ就テ
商業簡明簿へ登録シ及ヒ抜キ各ヲ以テ廣告セザル可カラ
ズ
抜キ各ニハ左ノ條款ヲ記載セザル可カラズ
第一款 会社ノ條約ヲ結了セシ年月日
第二款 會社ノ商標及ヒ会社設置ノ地名
第三款 事業ノ表章及ヒ年限
第四款 資本金額並ニ毎全株券及ヒ分割株券ノ金額
第五款 株券ノ性質即チ記名或ハ無記名
第六款 會社ヨリ發行スル廣告及ヒ該廣告ヲ附刊スル新

聞紙ニ付テノ規則

会社ノ條約中ニ支配人其見込金ヲ廣告シ及ヒ会社ニ代リテ
該員ノ署名スルコトヲ定メテアルレバ即チ此規則ヲ廣告ス可
シ

第二百十條^① 商業簡明簿ハ登録スル為メノ上票各一左ノ證各ヲ
附上セザル可カラズ

第一款 放銀ノ金額ヲ掲載シテアルモノニ右株主ノ姓名ヲ
手署シテアルコトノ證各

第二款 各株主ヨリ放銀ヲ請求シタル金額ニ付テ少クモ十
分ノ一但シ保險会社ハ少クモ五分ノ一既ニ

會社ニ徵集セシコトノ證各

第三款 株主ノ總會ニ於テ約條ノ趣意ニ基キ監督人ヲ任
命セシメテ該證各

第四款 其時ノ場合ニ於テハ^①標第二百零九條及^②第二百

九條ニ掲載シタル總會ノ決議案ニ付テノ裁判所
及ヒ錄事ノ證各

上票書ハ總支配人裁判所ニ於テ姓名ヲ手署シ或ヒハ公正
ノ證各ヲ以テ証ス可シ

上票各ニ附上シタル文各ヲ訂キ原本或ハ錄事ノ證各ヲ添
ヘタル副本ヲ裁判所ニ貯蔵ス可シ

第二百十一條 株主會社ハ商業簡明簿ハ登録セザル以前ニハ
會社トシテ看做スヲ得可カラズ^①該登録ノ以前發行シタル

全株券及ヒ分割株券ハ其價ナキモノトス^②此種ノ株券ヲ發
行シタル人ハ其所有主ノ為メ此事ヨリ釀生シタル損害ニ對

シテ獨自其責ニ任ス可シ
若シ商業簡明簿ハ登録スル以前會社ヨリ名ヲ以テ事務ヲ

舉行シタル時ハ之ヲ舉行シタルモノ獨自此事ニ對シテ保任
スルシ

第二百十二條 株券会社ハ其支店設置ノ地方商法裁判所ニ就
テ其條約ヲ商業簡明簿ニ登録ノ為メ上票セザル可カラ
ズ

該上票書ヲバ総支配人商法裁判所ニ於テ姓名ヲ手署シ或ハ
公正ノ証昏ヲ以テ証ス可シ而シテ該書中ニ第百十條ノ第
二項及ヒ第三項ニ掲載シタル課目ヲ列記スヘシ

商法裁判所ニテハ職掌上ヨリ此定規ニ背反シタル支配人ハ
罰金ヲ課ス

第二百十三條 株券会社ハ獨立ノモノトシテ乃チ其権理並ニ
義務ヲ有シ又不動産ヲ所有スル権理及ヒ之ニ屬スル其他ノ
権理ヲ有ス而シテ争訟ニ方リテ原被告両告ト成リ

得可シ

該會社ハ其舖店設置ノ地方裁判所ノ管轄ニ歸ス可

第二百十四條 会社ヲ引続キ維持シ及ヒ会社ノ條約ノ定規ヲ
変更スル目的ニ付テ總會ノ決議案ハ録事又ハ裁判所ノ証昏
ヲ以テ証スヘシ

右決議案ハ原来ノ條約ト等シキ手順ヲ以テ商業簡明簿ニ登
録シ及ヒ廣告セザル可カラズ

此決議案ハ会社設置ノ地方商法裁判所ニ就テ商業簡明簿ニ
登録セザル以前ハ法律上ノ効チキモノトス

第二百十五條 会社ノ事業ノ目的ヲ変更スルトハ会社ノ條約
ニ附徴ヲ以テ許シテアラザル以内ト投票ノ多数ヲ以テ決定
スルヲ得ヘシラズ

会社他ノ株券会社ノ株券ヲ譲リ受ル為メニ之ニ其資産及ヒ
引キ渡シテ解社スル場合ニ於テモ亦同様スル可
シ
株券会社ハ其株券ヲ買ヒ入ル、トテ得ヘカラス○該会社ハ
原来ノ條約又ハ之ヲ変更シテ未ダ株券ヲ発行セザル以前ニ
舉行シタル決議案ニ許シテ有ラザル以内ハ株券ヲ買入レ而
シテ其流通ヲ停止スルトテ得ヘカラス

第二節

株主ノ間ダニ契約トヨリ生スル関涉ノ事

第二百十六條 各株主ハ会社ノ資産ニ付テ相当ノ配賦ヲ得ヘ
シ
株主ハ既ニ会社へ払ヒ入レタル放銀額ヲバ再ビ払ヒ戻シラ
要スルトテ得ヘカラズ而シテ会社ノ成立シテアル間ダハ純

利益(会社ノ條約ニ之ヲ株主中ノ配賦ニ充ツ可ク定メテアル
以内)ノ配賦ヲ要スル權ヲ有ス

第二百十七條 額ヲ定メタル息銀ヲ株主ノ為メニ契約シテ
拂ヒ渡スルトテ得ヘカラス若シ会社ノ條約ニ豫備金ノ額ヲ定
メテアル時ハ毎年ノ決算表ニ因於シテ之ヲ准除シ而シテ總
放銀額外ニ於テ全ク剩餘シタルモノノニ唯株主中ニ配賦ス
ルトテ得ヘカス○株主ハ損失ニ因テ減少シタル放銀ノ原額ヲ
増補スル配賦ヲ受ルト無シ
但シ事業ヲ經營スル着手迄ノ準備ヲ為スニ需要ナル(会社ノ
條約ニ掲載シタル)日限内ハ株主ニ額ヲ定メタル息銀ヲ契約
スルトテ得ヘカス

第二百十八條 株主ハ如何ナル場合ニ於テモ確信ヲ以テ領収
シタル息銀及ヒ配賦ヲ再ビ返戻スル義務ヲ負荷

セズ

第二百十九條 株主ハ会社ノ營業ノ為メ又ハ該社ノ義務ヲ完
結スル為メニ條約面ニ定メタル株券ノ金額ヨリ以外出金ス
ルノ義務ヲ負荷セズ

第二百二十條 株券面ノ金額ヲ定規内ニ差シ出ダザル株主
ハ必ス淹滞息銀ヲ払フ可キ義務ヲ負フ可シ
株主其請求シタル株券ノ金額又ハ其一部ノ払ヒ入レフ淹滞
シタル場合ニ於テハ之ニ懲期罰金(此他法律上ヨリ生スル制
限外ニ)課スルヲ会社ノ條約ニ載定シ得可シ而シテ若懲
期シタル株主ハ其株券ヲ請求セルヨリシテ得タル権理消滅
シ及ヒ其既ニ会社ハ払ヒ込ミタル一部ノ金額流失スルヲ
モ亦載定シ得ヘシ

第二百二十一條 会社ノ條約上ニ株券上ノ金額ヲ拂ヒ入レル

トヲ督促スル手續ニ付テ別改定規ヲラザル時ハ会社ノ條約
ニ定メタル会社ノ廣告ヲ発行スル通規ニ循テ執行スヘシ第
百九十九條ノ第十一款

但シ株主如何ナル場合ニ於テモ株券上ノ金額ヲ払ヒ入レル
トノ督促又之ヲ為ス為メニ定テタル新聞紙上(第百九十九條ノ
看シ)於テ少ナク氏三回ノ廣告(株ニ最後ノ廣告ハ遅ク氏拂
ヒ入レテ為可キ期限ヨリ四週日以前ニ為ス可シ)ヲ以テ通知
セズシテ其権理ヲ消滅セラル、トアラズ○株券若シ記名券
ニシテ他ノ株主ノ承諾ヲ得ザレバ譲渡スヲ得ザルモノニ
係ラハ右督促ノ廣告ヲ新聞紙上ニ附刊セズシテ其各個株主
ハ特別ニ告知ス可シ

第二百二十二條 全株券及ヒ分割株券若シ無記名券ニ製シテア
ル時ハ左ノ規則ヲ準用ス可シ

第一款 株券面ノ金額全ク払ヒ済ミニ届ラザル以前ハ株券
ヲ附与スルヲ得可カラズ並ニ其一部ヲ辨ヒ入ル
、氏無記名「プロメツセ」インテリムスシヤインヲ附
与スルヲ得可カラズ

第二款 株券ヲ請求セシモノハ株券面金額ノ百分ノ四十ヲ
払ヒ入ル、一ニ對シテ必ス保任ス可シ該人此義務
ヲ自己ノ権理ヲ他人ニ附与スルニ因リテ免ル、一
ハ勿論会社ノ関涉ヲ免カル、一ヲ得ヘカラス
并ニ該人該金ヲ辨ヒ入レテ淹滞セシ為メニ其株券
ヲ請求セルヨリシテ得ル所ノ権理第二百二十条ヲ
消滅セラル、反猶ホ其百分ノ四十ノ金額ヲ払ヒ入
ル、義務ヲ負フ可シ

第三款 株券ヲ請求セタルモノハ百分ノ四十ノ金額ヲ払ヒ

済マセシ後如何ノ定規アルハ其餘ノ金額ヲ払ヒ
入ル、責任ヲ解除ス可キ一及ヒ該金ヲ辨ヒ入レシ
ニ付テ責任ヲ解除シタル場合ニ於テ「プロメツセ」及
ビ「インテリムスシヤイン」ヲ交附スヘキ一ヲ会社ノ
條約ニ載定シ得可シ

拂ヒ入レノ金額第二百二十二条ノ第二款ヲ株券面金額ノ百
分ノ二十ト定メタル右州ノ法律ト前款ノ定規ト相撞着スル
一有ラズ

第二百二十三條 株券ヲ若シ記名券トシテ製シテアル時ハ株
券發行委任会社ノ為メ制定シタル会社ノ株券簿ニ株券ヲ登
記シ及ヒ株券ヲ他人ニ譲リ渡ス一ニ付テノ定規第一百八十二
条及ヒ株券
株券面ノ金額全ク辨ヒ済マザル以内ハ株主其権理ヲ他人ニ

譲り渡す氏会社ニテ右新タニ株券ヲ得シ者ヲ株主ノ代リト
シテ認許シ及ヒ該株主ノ義務ヲ解除セシ時ノミ只残額ヲ払
フハキ義務ヲ免ゼラル、ヲ得可シ
又右ノ場合ニ於テ分離シタル株主ハ其分離シタル日ヨリ起
算シテ一箇年間会社ノ義務ニ對シテ株券面ノ残金額以内ハ
前項ノ新株主ヲ補助シテ保任スヘシ
第二百二十四條 会社ノ事件殊ニ支務ヲ執行スルヲ決算表ヲ
觀察シ及ヒ利益配賦ノ方法ヲ定ムルヲ付テ株主ニ屬スル
権理ハ總會ニ於テ衆株主ノ合同ヲ以テ施行スヘシ
会社ノ條約ニ別段之規アラザル時ハ一株券毎トニ株主ハ一
投票ノ權ヲ附与ス
第二百二十五條 第百九十一條及ヒ第百九十二條ニ於テ株券
発行委任会社ノ監督人ノ為メニ制定シタル定規ヲ株券会社

ノ監督人ノ為メニモ亦準用ス可シ
第二百二十五條 ①監督人ハ渾テ其管掌スル各支派ニ於テ社務
ヲ施行スルヲ監督シ並ニ事業ノ成迹ヲ報知シ又帳簿及ヒ
文書ヲ不時ニ視察シ而シテ社庫ノ現状ヲ検査スルノ權ヲ有
ス
監督人ハ歲計決算法及ヒ利益配賦決算ヲ検査シ之ヲ歲株主
ノ總會ニ於テ報知ス可シ
若シ会社ノ利害ニ関シ株主ノ總會ヲ開カザル可カラズト策
識スル時ハ監督人之ヲ招集スルヲ得ヘシ
第二百二十五條 ②渾テ監督人ノ内ニテ自己ノ意見ヲ以テスル
ト人ニ同意シテ為ストラ問ハズ左ニ列記スル事件ヲ執行スル
時ハ其損害ノ母償ニ對シ各親自ラ責ニ任ス可シ
第一款 株主ハ放銀ヲ払ヒ戻シ及ヒ第百十五條ノ第三款

歳
目

ノ定規ヲ背犯シテ会社ノ株券ヲ買ヒ入レ或ハ之ヲ買ヒ入レテ流通ヲ停止スル事

第二款 第二百十七條ノ定規ニ於テ私ヒ得ヘカラザル息銀及ヒ配賦ヲ私ヒ出ス事

第三款 定規第二百四十八條ヲ參考ス可シヲ遵奉セズシテ会社ノ資産ヲ配賦シ放銀ノ一部或ヒハ全部ヲ拂ヒ戻ス事

第二百二十六條 株主ヨリ支配人或ハ監督人ヘ係ル訴訟ノ方法ニ付テハ株券發行委任会社ノ為メニ制定シタル定規第九條及ヒ第九十五條ヲ準用ス可シ

第三節

支配人ノ権理及ヒ義務ノ事

第二百二十七條 凡テ株券会社ハ支配人ヲ置ク可シ第二百九

款ヲ參考ス可シ

此支配人ハ法律内外ノ事件ニ付テ会社ヲ代理スルノ權ヲ有ス

支配人ヲバ株主或ヒハ其他ノ者ノ内ヨリ一員乃至數員ヲ無給或ハ有給ニ任擧ス

支配人ヲバ之ト結了シタル契約ヨリシテ他人ノ得可償金上ノ權理ヲ消滅セザレバ何時ナリ此之ヲ免黜スルヲ得可シ

第二百二十八條 支配人ヲバ其任擧シタル時毎トニ商業簡明簿ヘ登錄スル為メ速ニ上稟ス可シ此上稟書ニ身元保証書ヲ附上ス可シ

支配人高法裁判所ニ於テ上稟各ハ其名ヲ手署シ或ハ公正ノ証各ヲ以テ之ヲ証ス可シ

高法裁判所ハ其職掌上ヨリ此定規ヲ遵奉セザル支配人、罰
金ヲ課ス

第百二十九條 支配人ハ会社ノ條約ニ於テ制定シタル法式
ニ憑據シテ其見込昏ヲ廣告シ及ヒ会社ニ代リテ其姓名ヲ手
署ス可シ

名署ノ方法ニ付テ條例中別改規則ナキ時ハ支配人一同連署
スルヲ要ス

名署ハ会社ノ商標又ハ支配人タル職名ハ其者ノ姓名ヲ附加
スルヲ以テ式トス

第百三十條 会社ハ支配人ヨリ会社ノ代理トナリテ決定シ
タル契約上ノ事務ニ對シ推理及ヒ義務ヲ有ス。縱令該人此支
ヲ明確ニ会社ノ代理トナリテ決約スルモ又ハ條約人ヨリ會
社ノ為メ決約スルモノトモテ認メタル情実アルモ亦同様

ナルヘシ

第百三十一條 支配人ハ会社ニ對シテ其会社ヲ代理スル權
域ニ付テ会社ノ條約又ハ株主總會ニ於テノ決議ニ因テ確定
シタル制限ヲ超越セザルヲ以テ義務トス可シ

但シ社外ノ人ニ對シテ支配人ノ会社ヲ代理スル權ニ限域
立ツルハ法律上ノ効ナシ。○特ニ某事務或ヒハ其支配人
某關係或ハ某期限或ハ其地方ニシテ会社ノ代理トナル事並
ニ一事毎トニ株主總會世話人監督人及ヒ其他株主中ノ役員
等ノ裁決ヲ要スル權域ヲ立ツルハ同上ナル可シ

第百三十二條 会社ノ名ヲ以テ誓詞スルハ支配人ノ任ヲ
ル可シ

第百三十三條 支配人ノ中ヲ罷黜セバ其事由ヲ商業簡明簿
ニ登錄スル為メ上稟ス可シ。若シ否ザレバ罰金ヲ課ス可

支配人ヲバ罷黜セシテ之ヲ付テ紛糾生ゼハ此事ヲ第四十六條ノ委任主管ヲ罷黜スルノ為メ制定シタル成規ニ循テ処分セシ場合ノニ唯他人ニ對シテ之レヲ拒絶スルヲ得可シ

第二百三十四條 会社ノ事務ヲ經紀スルヲ及ヒ之ヲ經紀スル為メニ会社ヲ代理スルヲ支配人ノ外專任委員及ヒ会社ノ役員ハモ亦負擔セシムルヲ得可シ○此場合ニ於テ該員ノ權域ハ其委任状ニ應シテ伸縮ス可シ若シ紛糾生スルハ右事務ノ經紀上ヨリ通常交渉スル契約上ノ支務ヲバ都テ之ヲ処理スル權ヲ有ス

第二百三十五條 会社ヨリ官署ノ召ニ應シ及ヒ其他ノ外事ニ付テ人ヲ差遣スルハ会社ヲ代リニ一人ニテ名署シ或ハ共同シテ連署スル權アル支配人中ノ一員又ハ裁判所ニ對シテ会社ヲ代理スル權アル會社ノ役員中ノ一員ニテ之ヲ代理セバ別ニ差遣ヲ要セス

第二百三十六條 株主ノ總會ヲ招集スルハ会社ノ條約ニ支配人ノ外他人ハモ亦此權ヲ附与シテアラザル以内ハ渾テ支配人ノ權内ニアル可シ

第二百三十七條 株主ノ總會ヲ会社ノ條約ニ確定シタル場合ノ外尚ホ会社ノ利害ニ関シ必要トシテ認ムル時ハ即チ之ヲ招集スルヲ得ベシ
其他又該會ヲ株主中ノ一員又ハ數員(此株券ノ金額ヲ共算シテ總放銀ノ十分ノ一ニ抵ル時)ヨリ該會ス可キ趣意及ヒ事由ヲ記載シ之ニ名署シタル回狀ヲ以テ要スル時ハ即チ之ヲ招集スルヲ得可シ○会社ノ條約ニ總會ヲ招集スルヲ要スル

権ハ総取銀ノ幾分ニ歸ストシテ該額ヨリ多少ノ割合ヲ定メ
テアル氏之ヲ準拠セザル可カラズ

第百三十八條 総会ヲ召集スルハ会社ノ條約ニ載定シテ
ル方法ニ循フ可シ

総会ヲ開ク目的ハ株主ヲ招集スルニ方リテ毎常之ヲ通知セ
ザル可カラズ○此手数ニ循テ通知セザル該事ハ決議ニ付ス
ルヲ得可カラズ但シ会場ニ於テノ建言ニ因テ非常ノ総会ヲ
開ク決議ハ此限ニ非ス

決議ニ付セズシテ但ダ意見ヲ陳述シ及ヒ弁論ヲ為ス迄ノ會
合ハ其趣意ヲ通知スルヲ要セズ

第百三十九條 支配人ハ会社ノ緊要ナル帳簿ヲ社組ムニ付
テ之ヲ監督スルヲ以テ義務トス○支配人ハ会社營業中ハ遅ク
氏毎歳ノ前六ヶ月以内ニ於テ株主ニ前年ノ決算表ヲ示授ス

可シ並ニ該期限内ニ会社ノ條約ニ社告ヲ発行スル為メ
ニ確定シタル規則ニ照準シテ該則中ニ社告ヲ刊行セシム可
ク定ムル新聞紙ニ附シテ廣告ス可シ

渾テ会社ノ事務ヲ執行スルモノハ前項ノ計并テ検査シテ之
ニ付キ支配人ノ過失アルヤ否ヲ議定スルハ予預スルヲ得
可カラズ

但シ会社ノ事務ヲ監督スルモノハ此限リニ非ズ

第百三十九條 ① 決算表ハ左ノ法式ニ循テ調成ス可シ

第一款 時價アル證券ハ決算表ヲ調成スル時ノ價ヲ度トシ
テ記入ス可シ

第二款 事業ヲ興起シ及ヒ事務ヲ施設スル費用ハ所有ノ部
ニ立ツルヲ得ス但シ歳計ニ於テ其全額ヲ払ヒニ
立ツ可シ

第三款 放銀又ハ会社ノ條約ニ因リ預備及ヒ修繕費ニ充ツル金額アラバ其ノ該金額ハ借受ノ部ニ立ツ可シ

第四款 総テ所有ト借受トヲ對照シテ生シタル利益或ヒハ損害ハ決算表尾ニ於テ特別ニ掲載ス可シ

第二百四十條 決算表上ニ於テ資本金原額ノ半ニ逆減少シタル時ハ支配人連ニ其事由ヲ各シテ總會ヲ召集ス可シ

会社ノ資産其負債ヲ償還シ能ハザル状態ヲ現出スル時ハ支配人倒産ノ公告ヲ願フ為メ其事由ヲ各シ裁判ニ上稟ス可シ

第二百四十一條 支配人会社ノ名ヲ以テ自ラ処分シタル契約上ノ事務ニ付テハ社外ノ人ニ對シ会社ノ義務ヲ自身ニ負荷スルコトヲ得ズ

権限ヲ踰ルル又ハ此節及ヒ会社ノ條約ノ定規ヲ犯シテ義務ヲ履行シタル支配人ハ此変ヨリ生シタル損害ニ對シテ自身其責ニ任ス可シ○若シ支配人第十七條ノ定規ニ反シテ株主ニ配賦金或ハ息銀ヲ拂ヒ渡ス時或ハ會社ニ於テ拂ヒラ禁シタル日ヲ承悉シテ該日ニ拂フ為ス時ハ特ニ前項ノ定規ヲ準用ス可シ

第四節 會社解散ノ事

第四百十二條 株券會社ハ左ノ條款ニ因リテ解散スルモノナリ

第一款 會社ノ條約ニ於テ定メタル期限ノ經過シタル時
第二款 株主ヨリ録事或ハ裁判官ノ證書ヲ以テ證シタル決議案ヲ差出シ解散ヲ請フ時

第三款 倒産ノ公告ヲ申シ渡サレシ時

株券會社他ノ事故ニ因リテ解散スルに此節ノ定規ヲ準用ス可シ

第二百四十三條 會社倒産ノ言ヒ渡シテ承ケズシテ解散スル時ハ之ヲ商業簡明簿ニ登載ノ為メ支配人ヨリ商法裁判所ニ上稟ス可シ若シ之ニ反セハ該人ハ罰金ヲ課ス並ニ此事ヲ此廣告ヲ為ス為メニ定メテアル新聞紙第二百九條ノ第十一款ヲ參看ス可シニ附刊シテ三四廣告ス可シ

此廣告ハ併セテ各債主各自會社ニ來会ス可キヲ掲載ス可シ

第二百四十四條 解社決算ハ會社ノ條約或ハ株主ノ決議案ニ支配人ヲ除キ他人ハ之ヲ委任スルヲ認許セザル時ハ即チ該算ノ專斷スル可シ

共同會社 解社決算上稟及ヒ契約上ノ関涉ニ付テノ成規ヲ株券會社ニモ亦準用スルヲ得ヘシ但シ商業簡明簿ニ登記ノ為メ商法裁判所ニ上稟スルハ支配人ノ任タルベシ

解社決算人ヲバ何時ナリモ更換スルヲ得可シ

第二百四十五條 解散シタル株券會社ノ資産ハ其債ヲ消滅シタル後各株主中ニ於テ其株券高ニ應ジテ之ヲ配賦スルヲ得可シ

此配賦ハ社告ヲナス為メニ預定シテアル新聞紙第四百三條ヲ參看ス可シ上ニ於テ三四ノ廣告ヲ登セシヨリ起算シテ一ケ年ヲ經過セザル以前ニ決行スルヲ得可カラズ

簿上或ヒ他ノ方法ニ因テ明白ニ會社ハ貸付アルヲ徴スルニ足ル債主ノ為メ又ハ未ダ完結セザル條約及ヒ爭論ヲ生ジテアル貸金ノ為メニ付テハ株券發行委任會社ノ此事ニ関

スル定則第百二條ノ及ヒヲ準用ス可シ
支配人及ヒ解社決算ノ中ニテ此規則ニ背犯シテ仕払ヒラ
高シタルモノハ其拂ヒ金ノ賠償ヲ自己ノ責任トス可シ
第百四十六條 解社ノ帳簿 商法裁判所ツ指令ニ隨ヒ確十
ル処一寄託シテ十年間之ヲ保存ス可シ



